

令和6年度 全国学力・学習状況調査

— 鈴鹿市の結果概要 —



令和6年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

1	調査の目的	1
2	調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）	1
3	調査日・内容	1
4	調査結果の概要	
（1）	本年度の平均正答率	2
（2）	経年変化	3
5	教科に関する調査の結果	
（1）	小学校 国語	5
（2）	小学校 算数	6
（3）	中学校 国語	7
（4）	中学校 数学	8
6	各教科に関する質問紙調査の結果	
（1）	小学校国語に関する質問紙調査の結果	9
（2）	小学校算数に関する質問紙調査の結果	10
（3）	中学校国語に関する質問紙調査の結果	11
（4）	中学校数学に関する質問紙調査の結果	12
7	鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問紙調査の結果	
（1）	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	16
（2）	I C Tを活用した学習状況	22
（3）	家庭学習に関する取組状況	27
（4）	非認知能力等に関する状況	29

1 調査の目的

- 1 全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図ることを目的として実施される。
- 2 市内すべての学校において、児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。

2 調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科） 実施校数	実施児童生徒数	
		国語	算数・数学
小学校6年生	30校	1,504人	1,509人
中学校3年生	10校	1,535人	1,532人

3 調査日・内容

＜調査日＞ 令和6年4月18日（木）

＜調査内容＞

- ・ 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則として、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりになっている。

	国語		算数	
小学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項	4問	◎数と計算	6問
	◎情報の扱い方に関する事項	1問	◎図形	4問
	◎我が国の言語文化に関する事項	1問	◎変化と関係	3問
	◎話すこと・聞くこと	3問	◎データの活用	4問
	◎書くこと	2問		
	◎読むこと	3問		
	国語		数学	
中学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項	3問	◎数と式	5問
	◎情報の扱い方に関する事項	2問	◎図形	3問
	◎我が国の言語文化に関する事項	1問	◎関数	4問
	◎話すこと・聞くこと	3問	◎データの活用	4問
	◎書くこと	2問		
	◎読むこと	4問		

- ・ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査結果の概要

(1) 本年度の平均正答率

表1 令和6年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語	算数
鈴鹿市	68	63
三重県（公立）	67	62
全国（公立）	67.7	63.4

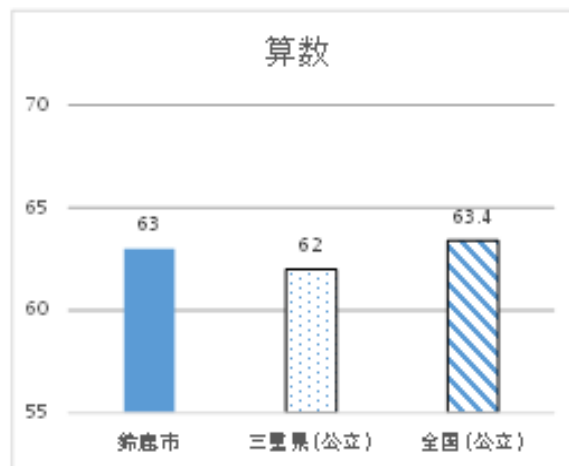
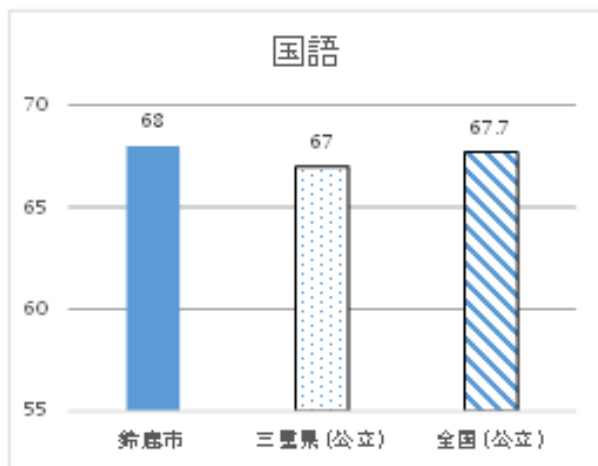
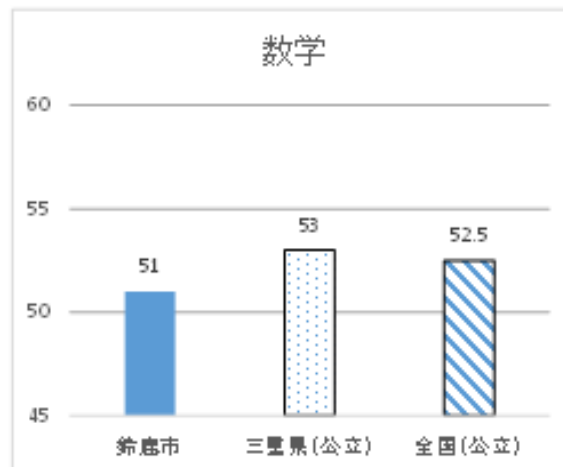
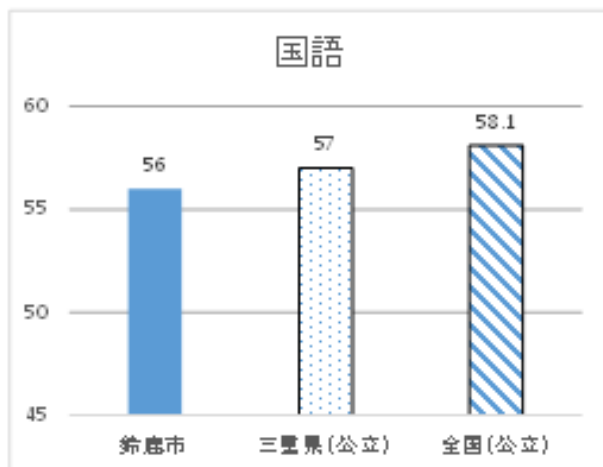


表2 令和6年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語	数学
鈴鹿市	56	51
三重県（公立）	57	53
全国（公立）	58.1	52.5



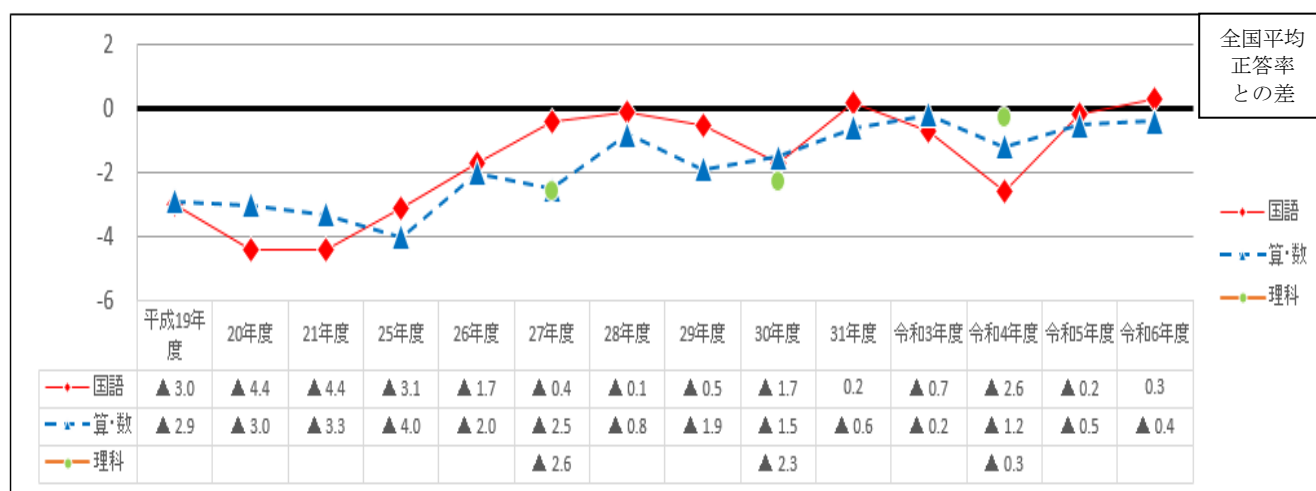
(2) 経年変化

- ・ 小学校の国語は、全国平均を5年ぶりに上回った。
- ・ 小学校の算数は、全国平均をわずかに下回ったものの、前年度よりも改善し全国平均正答率との差が縮まった。
- ・ 中学校は、2教科ともに全国平均を下回ったものの、前年度よりも改善し全国平均正答率との差が縮まった。
- ・ 小中ともに、全国平均正答率との差が縮まり、改善傾向にある。

表3 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（小6）（％）

小学校	平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	64	63.8	64	64.7	63	65.6	67	67.2	68	67.7
算数	66	66.6	70	70.2	62	63.2	62	62.5	63	63.4
理科	—	—	—	—	63	63.3	—	—	—	—

図1 鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（小6）



※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度、24年度は抽出調査のため記載なし

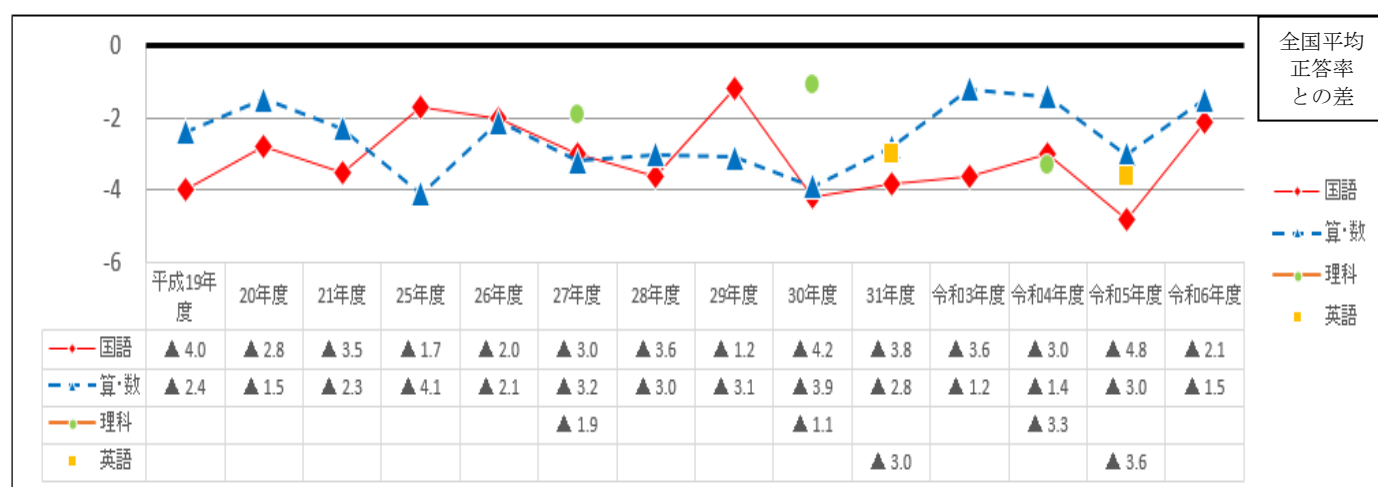
※平成23年度は、東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

表4 過去5か年の鈴鹿市と全国平均正答率（中3）（％）

中学校	平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	69	72.8	61	64.6	66	69.0	65	69.8	56	58.1
数学	57	59.8	56	57.2	50	51.4	48	51.0	51	52.5
理科	—	—	—	—	46	49.3	—	—	—	—
英語	53	56.0	—	—	—	—	42	45.6	—	—

図2 鈴鹿市と全国平均正答率との差の経年変化（中3）



※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度、24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は、東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校 国語

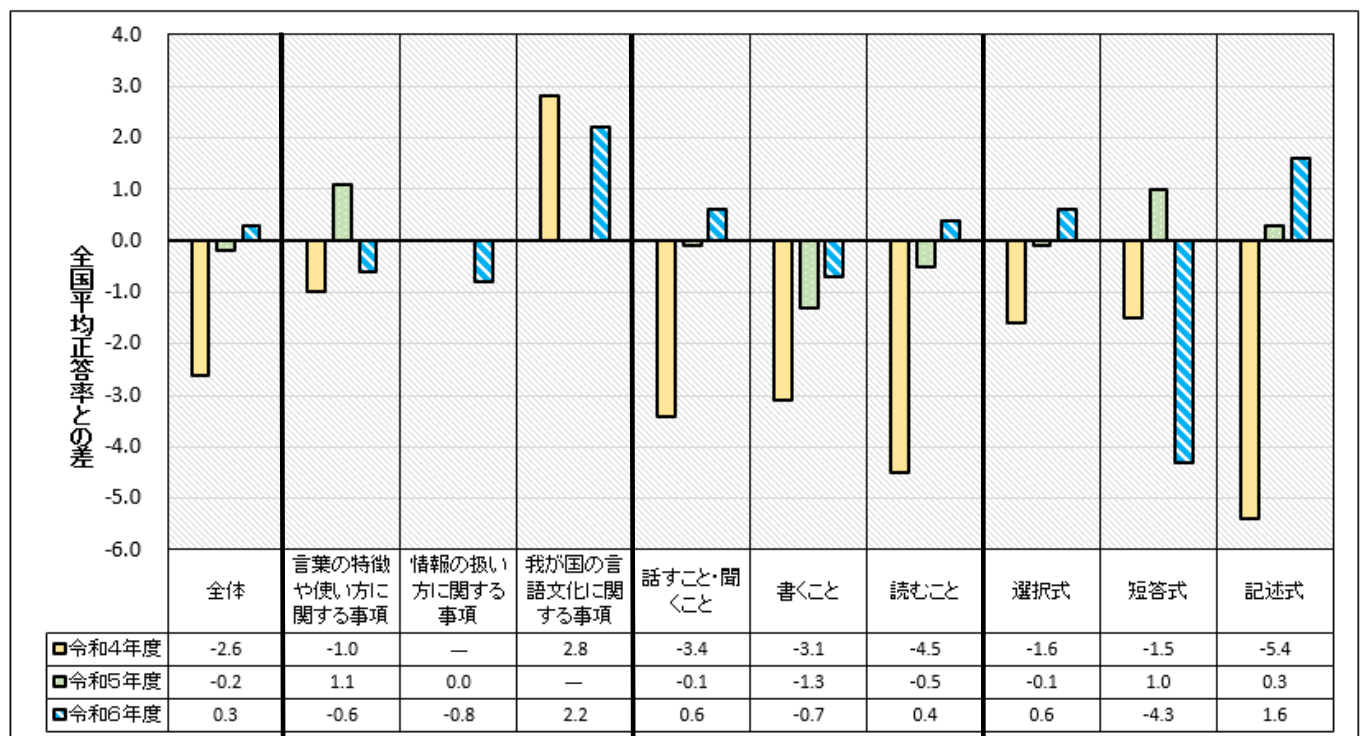
※全国平均正答率との比較について

- 「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を上回った。
- 令和5年度と比較すると、特に「読むこと」に関する領域が改善されている。
- 「記述式」の問題の平均正答率が、2年連続で全国平均正答率を上回った。
- 「短答式」の問題が、全国との差が最も開いている。

表5 小学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校国語		令和4年度			令和5年度			令和6年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	63	65.6	-2.6	67	67.2	-0.2	68	67.7	0.3
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	68.0	69.0	-1.0	72.3	71.2	1.1	63.8	64.4	-0.6
	情報の扱い方に関する事項	—	—	—	63.4	63.4	0.0	86.1	86.9	-0.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.7	77.9	2.8	—	—	—	76.8	74.6	2.2
	話すこと・聞くこと	62.8	66.2	-3.4	72.5	72.6	-0.1	60.4	59.8	0.6
	書くこと	45.4	48.5	-3.1	25.4	26.7	-1.3	67.7	68.4	-0.7
	読むこと	62.1	66.6	-4.5	70.7	71.2	-0.5	71.1	70.7	0.4
問題形式	選択式	70.2	71.8	-1.6	73.5	73.6	-0.1	70.5	69.9	0.6
	短答式	62.1	63.6	-1.5	63.7	62.7	1.0	55.4	59.7	-4.3
	記述式	45.9	51.3	-5.4	51.4	51.1	0.3	66.2	64.6	1.6

図3 小学校 国語（R4～R6 経年変化）



(2) 小学校 算数

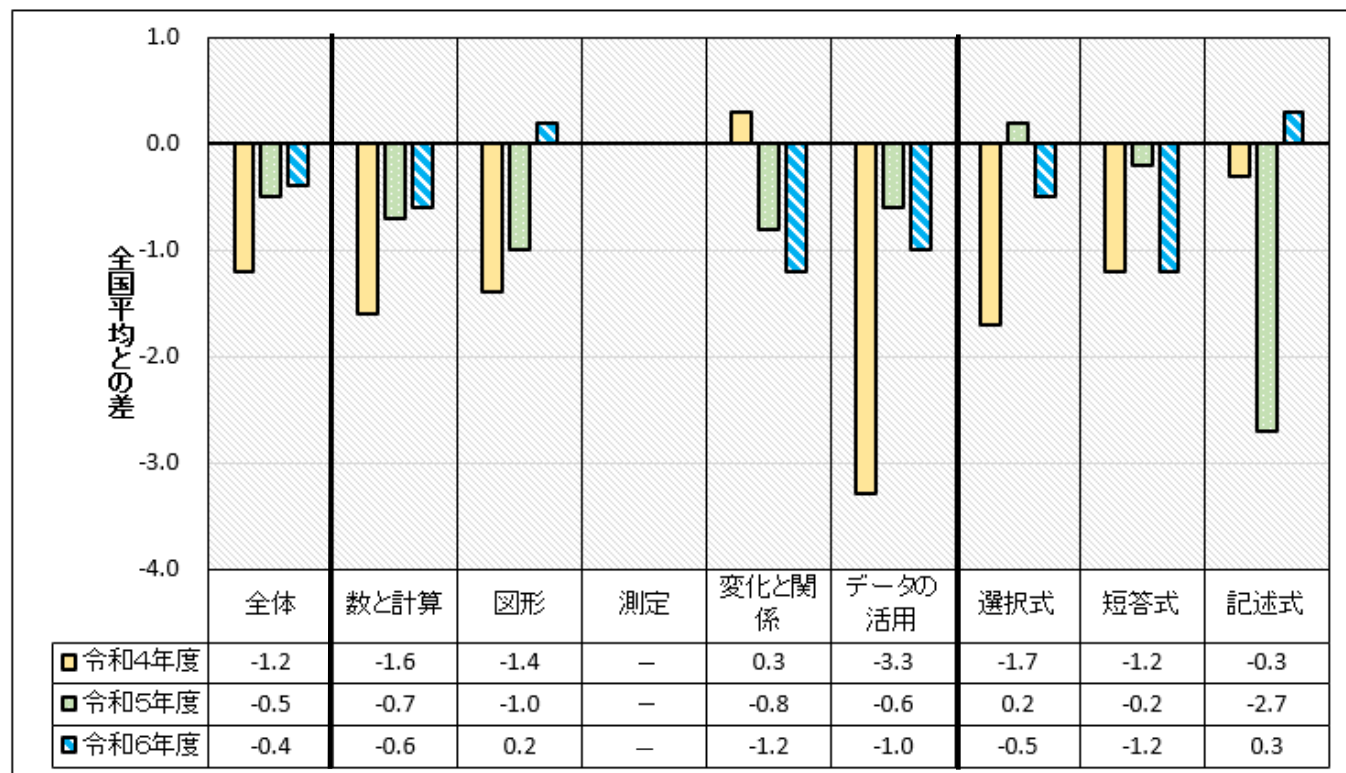
※全国平均正答率との比較について

- 経年課題であった「図形」領域では、全国平均正答率を上回り、年々改善されている。
- 「記述式」の問題の平均正答率が調査開始以降、初めて全国平均正答率を上回った。
- 問題形式においては、「短答式」の問題が全国平均正答率との差が最も広がっている。

表6 小学校算数における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校算数		令和4年度			令和5年度			令和6年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	62	63.2	-1.2	62	62.5	-0.5	63	63.4	-0.4
学習指導要領の領域等	数と計算	68.2	69.8	-1.6	66.6	67.3	-0.7	65.4	66.0	-0.6
	図形	62.6	64.0	-1.4	47.2	48.2	-1.0	66.5	66.3	0.2
	測定	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	変化と関係	51.6	51.3	0.3	70.1	70.9	-0.8	50.5	51.7	-1.2
	データの活用	65.4	68.7	-3.3	64.9	65.5	-0.6	60.8	61.8	-1.0
問題形式	選択式	50.1	51.8	-1.7	57.9	57.7	0.2	74.8	75.3	-0.5
	短答式	75.3	76.5	-1.2	74.5	74.7	-0.2	60.8	62.0	-1.2
	記述式	59.9	60.2	-0.3	44.6	47.3	-2.7	51.3	51.0	0.3

図4 小学校 算数（R4～R6 経年変化）



(3) 中学校 国語

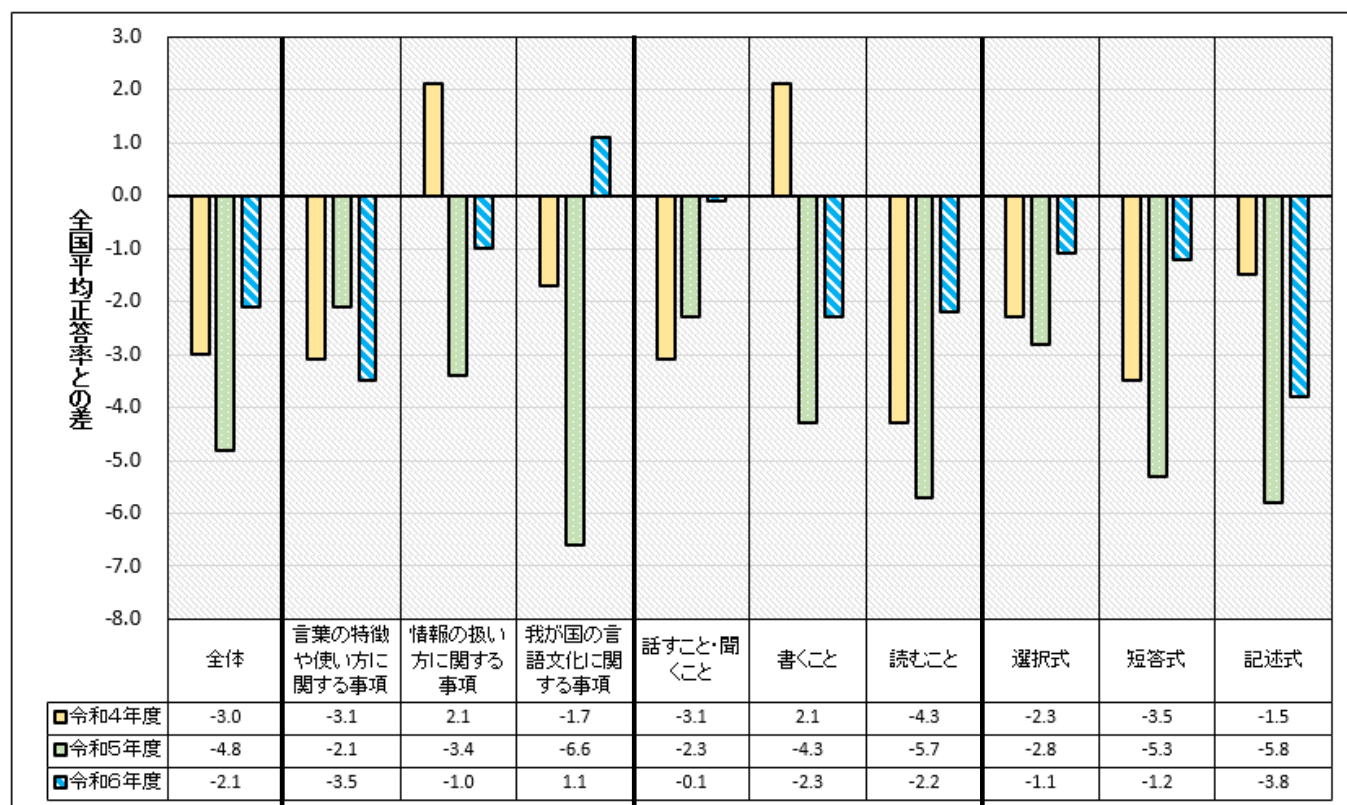
※全国平均正答率との比較について

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の領域では、令和5年度と比較すると改善されている。
- 「我が国の言語文化に関する事項」は、平均正答率が全国平均正答率を上回った。
- 経年課題となっている「書くこと」「読むこと」の領域では、改善が見られたものの、依然、全国平均正答率を2ポイント以上下回っている。

表7 中学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校国語		令和4年度			令和5年度			令和6年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		66	69.0	-3.0	65	69.8	-4.8	56	58.1	-2.1
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.1	72.2	-3.1	65.4	67.5	-2.1	55.7	59.2	-3.5
	情報の扱い方に関する事項	48.6	46.5	2.1	60.0	63.4	-3.4	58.6	59.6	-1.0
	我が国の言語文化に関する事項	68.5	70.2	-1.7	68.1	74.7	-6.6	76.7	75.6	1.1
	話すこと・聞くこと	60.8	63.9	-3.1	79.9	82.2	-2.3	58.7	58.8	-0.1
	書くこと	48.6	46.5	2.1	58.9	63.2	-4.3	63.0	65.3	-2.3
	読むこと	63.6	67.9	-4.3	58.0	63.7	-5.7	45.7	47.9	-2.2
問題形式	選択式	71.4	73.7	-2.3	70.3	73.1	-2.8	59.9	61.0	-1.1
	短答式	66.8	70.3	-3.5	60.3	65.6	-5.3	60.6	61.8	-1.2
	記述式	55.9	57.4	-1.5	62.2	68.0	-5.8	41.7	45.5	-3.8

図5 中学校 国語（R4～R6 経年変化）



(4) 中学校 数学

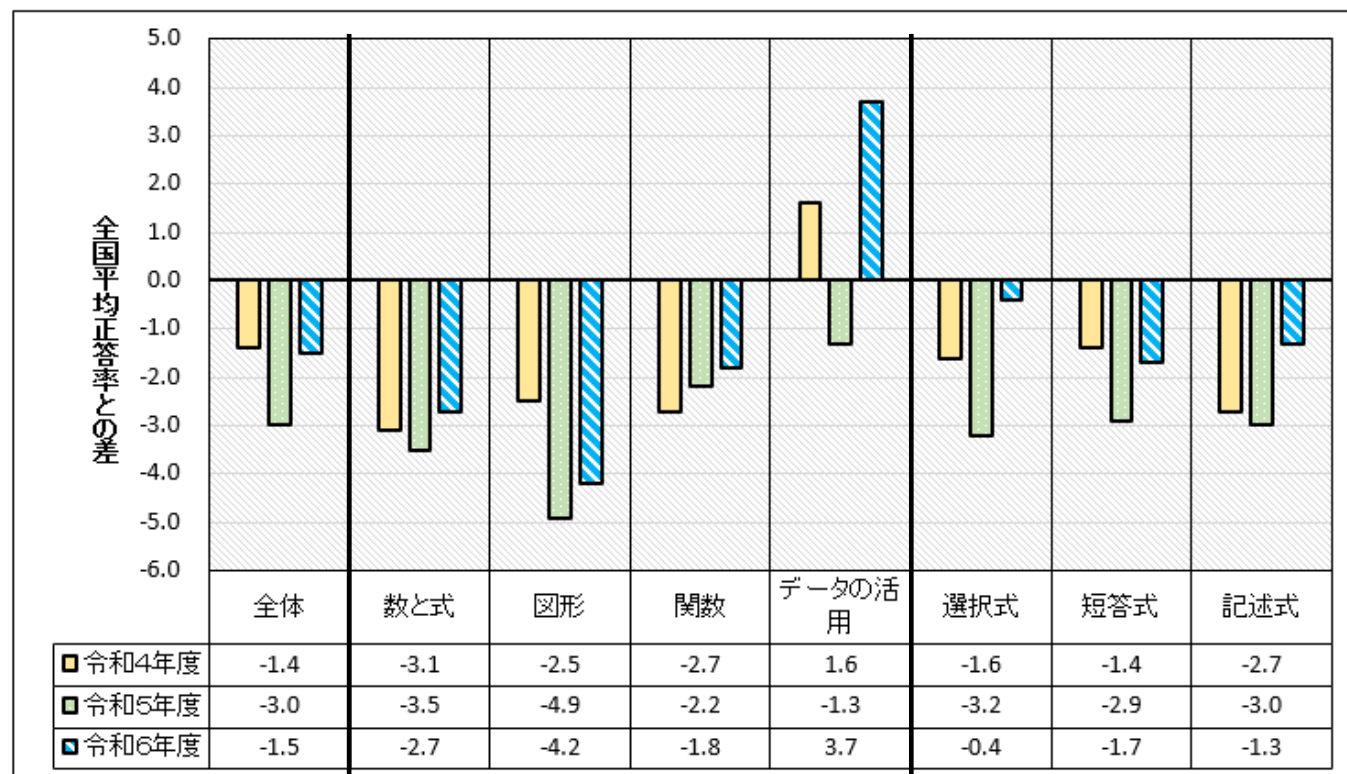
※全国平均正答率との比較について

- 令和5年度と比較するとすべての領域において、全国平均正答率との差が縮まり、改善された。
- 「データの活用」は、平均正答率が全国平均正答率を大きく上回った。
- 「図形」領域は、全国平均正答率との差が最も大きい。
- 問題形式においては、「短答式」の問題が全国平均正答率との差が最も広がっている。

表8 中学校数学における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校数学		令和4年度			令和5年度			令和6年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	50	51.4	-1.4	48	51.0	-3.0	51	52.5	-1.5
学習指導要領の領域等	数と式	54.3	57.4	-3.1	59.5	63.0	-3.5	48.4	51.1	-2.7
	図形	41.1	43.6	-2.5	28.3	33.2	-4.9	36.1	40.3	-4.2
	関数	40.9	43.6	-2.7	49.0	51.2	-2.2	58.9	60.7	-1.8
	データの活用	58.7	57.1	1.6	47.2	48.5	-1.3	59.2	55.5	3.7
問題形式	選択式	51.0	52.6	-1.6	42.1	45.3	-3.2	58.1	58.5	-0.4
	短答式	64.3	65.7	-1.4	59.7	62.6	-2.9	65.3	67.0	-1.7
	記述式	33.5	36.2	-2.7	38.6	41.6	-3.0	28.0	29.3	-1.3

図6 中学校 数学（R4～R6 経年変化）



6 各教科に関する質問紙調査の結果

本稿の見方

- * 質問文は、令和6年度調査を掲載している。なお、令和4年度、令和5年度とわずかに文言が異なる質問については、同質問と捉え、データを記載している。
- * 肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（又は、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を示す。
- * 児童・生徒質問紙と学校質問紙の結果を照合し、校種・教科別に課題を記載している。

(1) 小学校国語に関する質問紙調査の結果

児童質問紙

表9 児童の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
42	国語の勉強は好きですか	54.2	54.0	56.2	62.0	▲5.8
43	国語の勉強は大切だと思いますか	92.9	92.4	93.2	94.5	▲1.3
44	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.4	83.1	82.5	86.3	▲3.8
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.5	89.8	91.0	93.2	▲2.2
46	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか【新規】	—	—	75.9	78.3	▲2.4
47	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか【新規】	—	—	75.7	80.0	▲4.3
48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか【新規】	—	—	79.3	83.2	▲3.9
49	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	—	78.1	82.2	84.4	▲2.2

表10 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
国1	解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	74.8	79.6	80.4	79.1	+1.3

学校質問紙

表 1 1 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
41	前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	96.7	90.0	+6.7
42	前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	96.7	92.6	+4.1
43	前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	93.3	94.9	▲1.6
44	前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような授業を行いましたか	100.0	100.0	96.7	96.9	▲0.2

(2)小学校算数に関する質問紙調査の結果

児童質問紙

表 1 2 児童の「算数の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
50	算数の勉強は好きですか	61.7	59.6	63.6	61.0	+2.6
51	算数の勉強は大切だと思いますか	93.9	93.4	94.9	94.6	+0.3
52	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.4	78.2	83.6	82.1	+1.5
53	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.4	92.5	93.5	94.1	▲0.6
54	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	68.3	—	78.7	77.9	+0.8
55	算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	79.0	—	83.3	83.3	0.0
56	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか【新規】	—	—	64.1	63.6	+0.5
57	算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか【新規】	—	—	82.5	84.6	▲2.1

表 1 3 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R5 全国 (公立)	R5 全国 平均 との差
算 1	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	82.0	77.6	80.2	78.7	+1.5

学校質問紙

表 1 4 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
45	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	96.7	100.0	93.4	92.3	+1.1
46	前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形についての実感を伴った理解をする活動を行いましたか	93.4	96.7	96.6	94.6	+2.0
47	前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか【新規】	—	—	96.7	96.2	+0.5
48	前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか【新規】	—	—	96.6	94.8	+1.8

(3)中学校国語に関する質問紙調査の結果

生徒質問紙

表 1 5 生徒の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
42	国語の勉強は好きですか	62.3	60.4	69.4	64.3	+5.1
43	国語の勉強は大切だと思いますか	94.2	92.7	94.8	93.9	+0.9
44	国語の授業の内容はよく分かりますか	83.9	81.1	87.4	82.7	+4.7
45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.2	88.2	92.3	90.6	+1.7
46	国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか【新規】	—	—	80.1	78.7	+1.4
47	国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか【新規】	—	—	82.8	80.5	+2.3
48	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか【新規】	—	—	78.7	76.7	+2.0
49	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか【新規】	—	—	85.3	82.0	+3.3

表 1 6 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
国 1	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	79.1	68.0	71.5	72.0	▲0.5

学校質問紙

表 1 7 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
41	前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	100.0	93.9	+6.1
42	前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	100.0	91.5	+8.5
43	前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか【新規】	—	—	80.0	95.8	▲15.8
44	前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか【新規】	—	—	90.0	95.4	▲5.4

（４）中学校数学に関する質問紙調査の結果

生徒質問紙

表 1 8 生徒の「数学の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
50	数学の勉強は好きですか	57.6	59.4	57.8	57.2	+0.6
51	数学の勉強は大切だと思いますか	86.1	84.6	87.9	87.2	+0.7
52	数学の授業の内容はよく分かりますか	79.3	74.2	78.2	75.7	+2.5
53	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	77.5	75.9	81.4	78.5	+2.9
54	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	44.5	—	59.3	57.2	+2.1
55	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	75.0	—	79.0	78.1	+0.9
56	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか【新規】	—	—	47.5	46.0	+1.5
57	数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか【新規】	—	—	77.8	77.0	+0.8

表 19 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
数 1	解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたがそれらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	54.8	56.1	49.2	50.0	▲0.8

学校質問紙

表 20 「数学科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R6 質問 番号	質 問	R4 鈴鹿市	R5 鈴鹿市	R6 鈴鹿市	R6 全国 (公立)	R6 全国 平均 との差
45	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	80.0	100.0	90.0	88.5	+1.5
46	前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	50.0	80.0	90.0	85.7	+4.3
47	前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか【新規】	—	—	100.0	94.8	+5.2
48	前年度までに、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか【新規】	—	—	100.0	95.5	+4.5

7 鈴鹿市の重点取組等に関する児童生徒質問紙調査の結果

まとめ方に関して

○質問項目の抽出理由

鈴鹿市の重点取組に関する項目であること

(※昨年度抽出したもの＋学力向上分析シートで抽出したもの＋新規のもの)

○4つの分類

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問番号・・・児童生徒共通(29)(30)(31)(33)新規(35)新規(37)新規

(2) ICTを活用した学習状況

質問番号・・・児童生徒共通(27)(28-1)新規(28-2)新規

(28-6)新規(28-7)新規

(3) 家庭学習に関する取組状況

質問番号・・・児童生徒共通(21)(22)

(4) 非認知能力等に関する状況

質問番号・・・児童生徒共通(7)(9)(11)(12)(16)(19)(20)新規

○記述による分析の視点

(1) R6 鈴鹿市と R5 鈴鹿市の比較、R6 鈴鹿市と R6 全国の比較

(2) 鈴鹿市における経年変化(5年以内)が特徴的なものについて記述

(3) クロス集計の結果、平均正答率と一定の関係性が見られるものについて記述

本年度の結果の概要

本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る(下回る)質問項目		<u>上回る</u> 小(7)、(16) 中(7)、(11)、(12)、 (16)、(19)、(30)		<u>下回る</u> 小(21)、(22) 中(21)、(22)
本市の結果が前年度よりも大きく(5ポイント以上)上回る(下回る)質問項目		<u>上回る</u> 小(30)、(31) 中(7)、(9)、(31)		<u>下回る</u> 小 中
本市の結果が全国より大きく(5ポイント以上)上回る(下回る)質問項目		<u>上回る</u> 小 中(7)、(27)		<u>下回る</u> 小(22) 中(21)、(22)、(29)
経年変化(5年以内)において本年度が最も高い(低い)質問項目		<u>高い</u> 小(7)、(9)、(12)、 (16)、(29)、(30)、 (31) 中(7)、(9)、(12)、 (16)、(31)		<u>低い</u> 小(21)、(22) 中(21)、(22)

平均正答率と一定の関係性が見られる質問項目

小(9)、(37)
中(16)、(33)、(35)
○強い関係性が見られる質問項目
小(16)、(20)、(28-1)、(30)、(31)
中(20)、(27)、(29)、(30)、(31)、(37)

資料の見方

<矢印記号について>

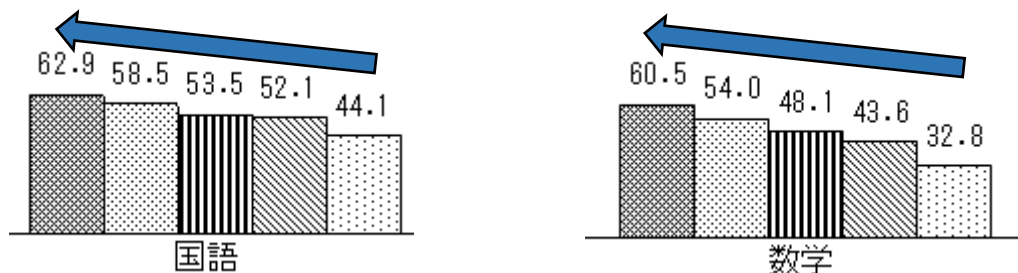
- ↗・・・本市の結果が全国比、前年度比ともに上回る（下回る）質問項目
- ↖・・・本市の結果が前年度よりも大きく（5ポイント以上）上回る（下回る）質問項目
- ↗・・・本市の結果が全国よりも大きく（5ポイント以上）上回る（下回る）質問項目
- ➡・・・経年変化（5年以内）において、本年度が最も高い（低い）質問項目

<グラフの見方について>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本市の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する本市の回答別の平均正答率（R6年度）を示します。
- ・グラフには、無回答の値を入れていないため、合計が100%にならない場合があります。

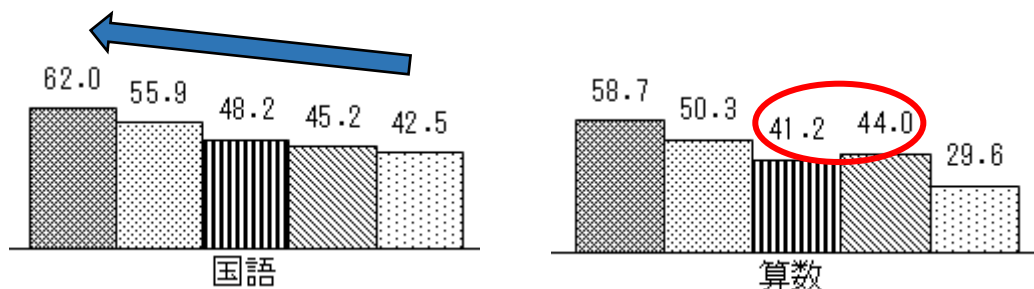
<記述について>

- ・平均正答率と一定の関係性が見られる質問項目については、次のように記述しています。
 (例) 国語及び算数（数学）ともに一定の関係性が見られる（青矢印）場合（＝強い関係性が見られる）



「中学生は、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。」

- (例) 国語は一定の関係性が見られるが、算数（数学）は国語ほどの関係性が見られない（隣同士の1ヶ所のみが逆転している）場合

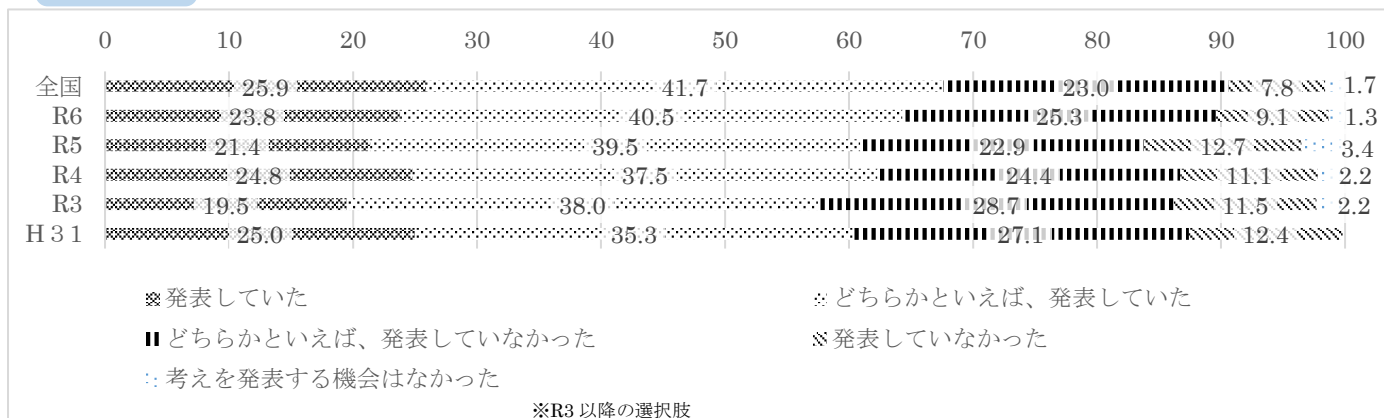


「小学生は、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。」

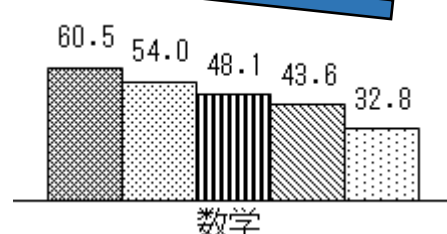
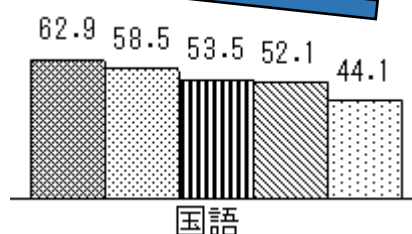
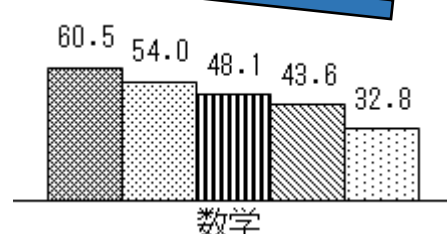
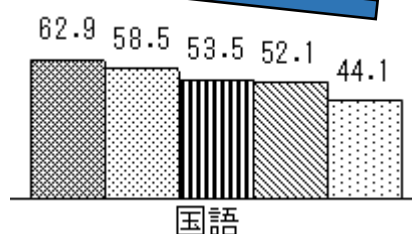
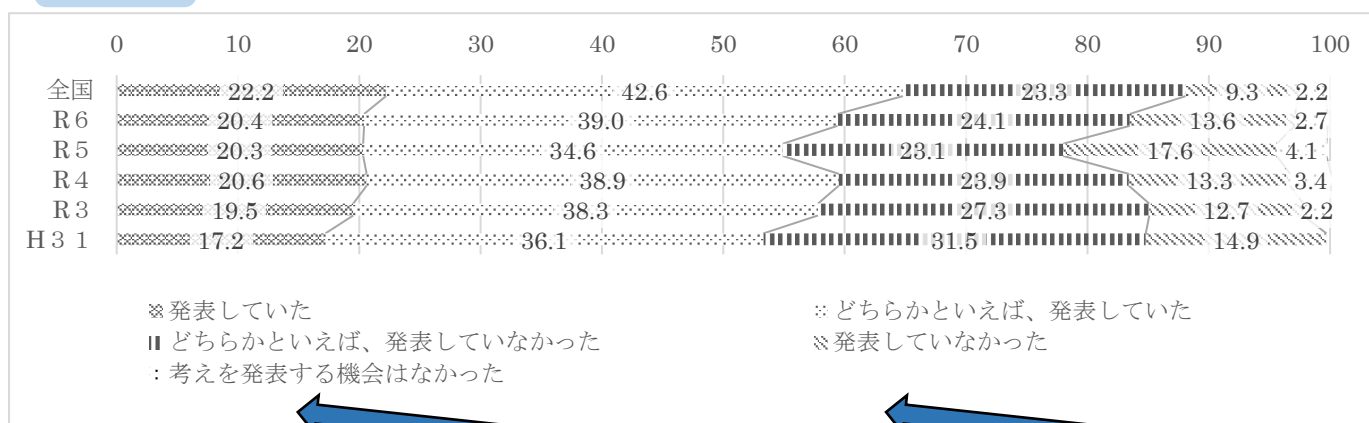
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【児童生徒質問紙(29)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学生



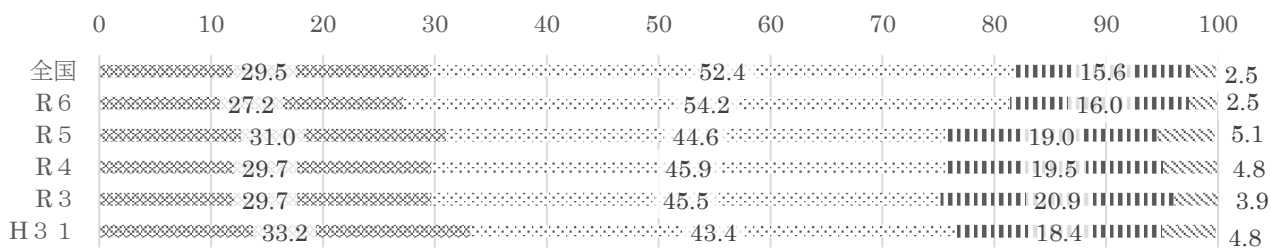
中学生



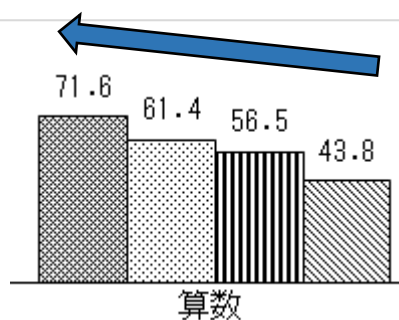
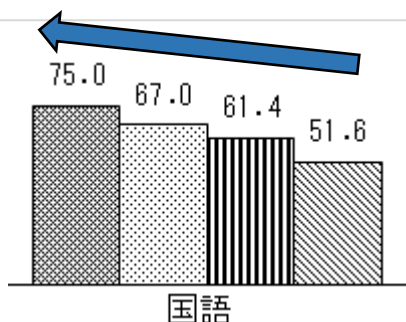
小学生は、肯定的回答割合が64.3%とR5年度の60.9%を上回っているが、全国の67.6%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が59.4%とR5年度の54.9%を上回っているが、全国の64.8%を大きく下回っている。また、小学生の肯定的回答割合は、H31年度以降において最も高くなっている。中学生は、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(30)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

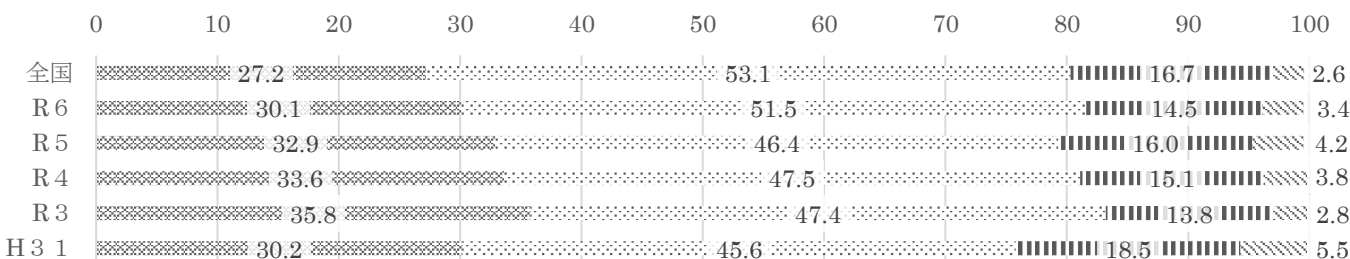
小学生



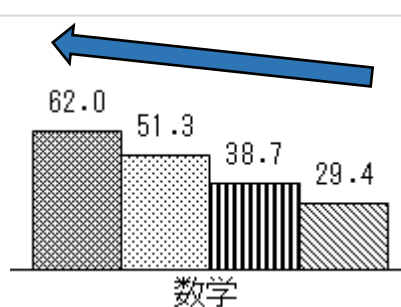
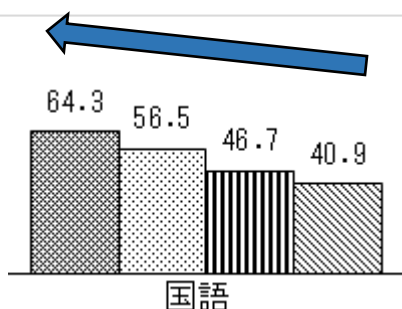
※当てはまる ※どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ※当てはまらない



中学生



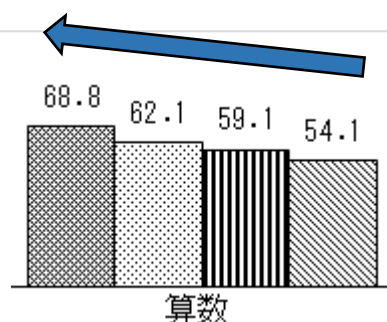
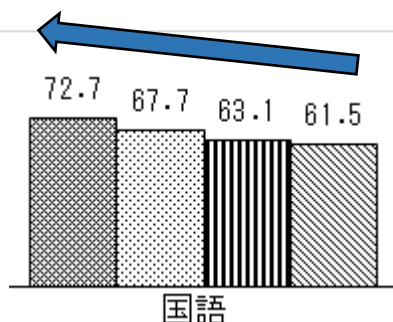
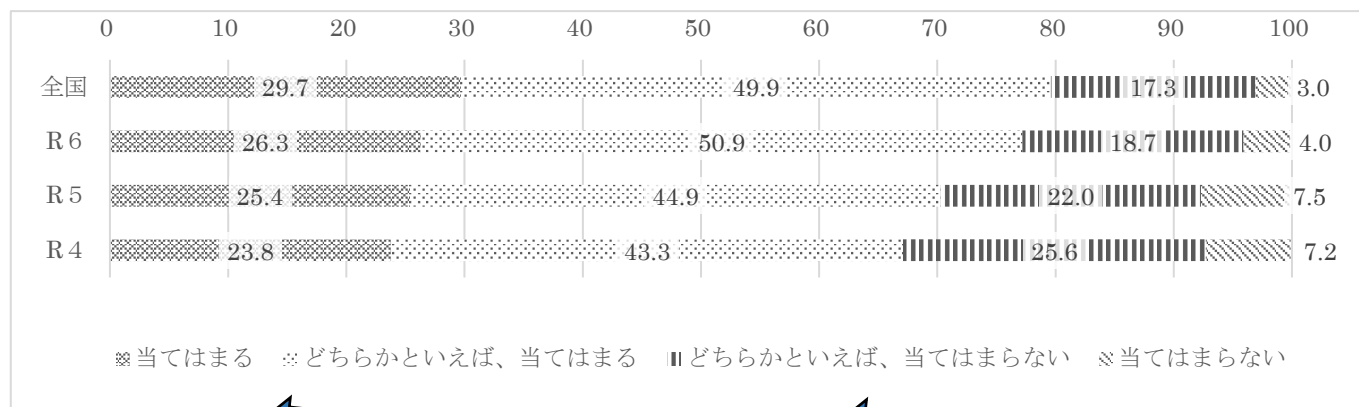
※当てはまる ※どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ※当てはまらない



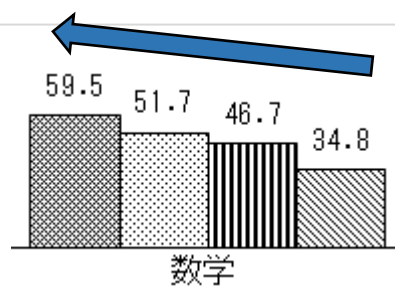
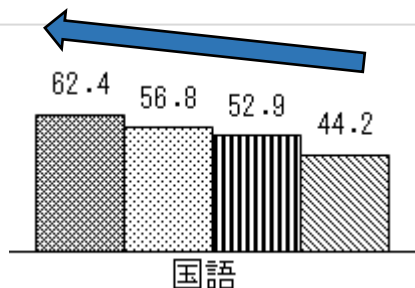
小学生は、肯定的回答割合が 81.4%で R5年度の 75.6%を大きく上回っているが、全国の 81.9%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 81.6%と R5年度の 79.3%を上回り、全国の 80.3%も上回っている。また、小学生の肯定的回答割合は、H31年度以降において最も高くなっている。小中学生ともに課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(31)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

小学生



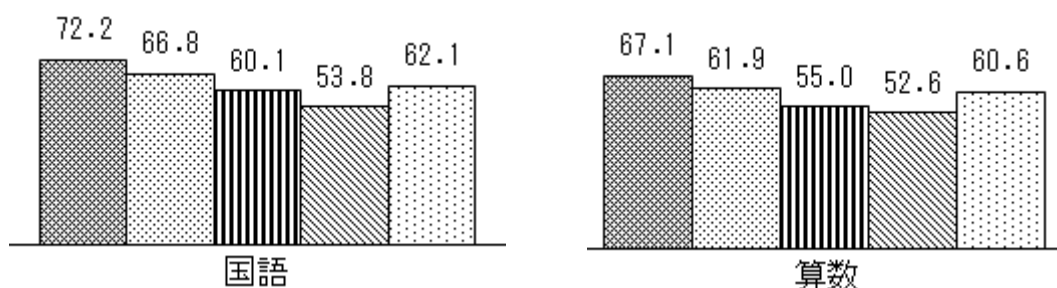
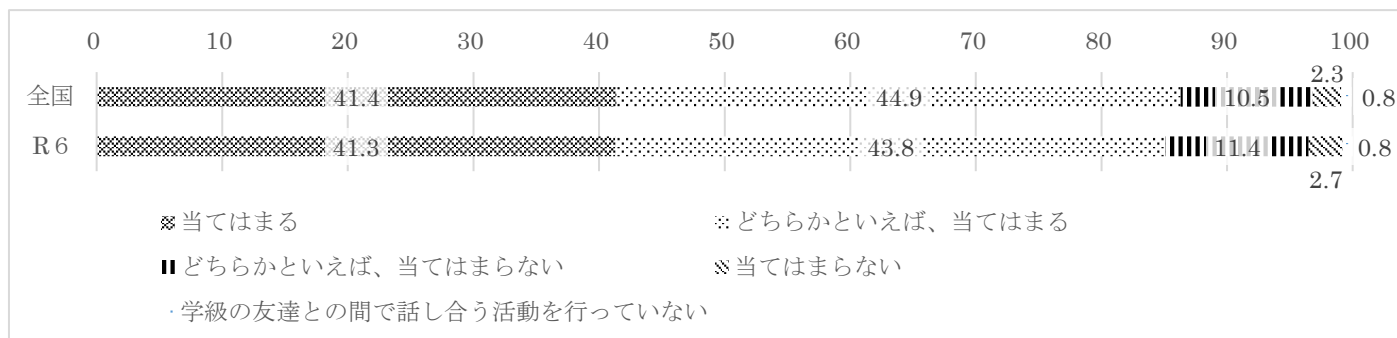
中学生



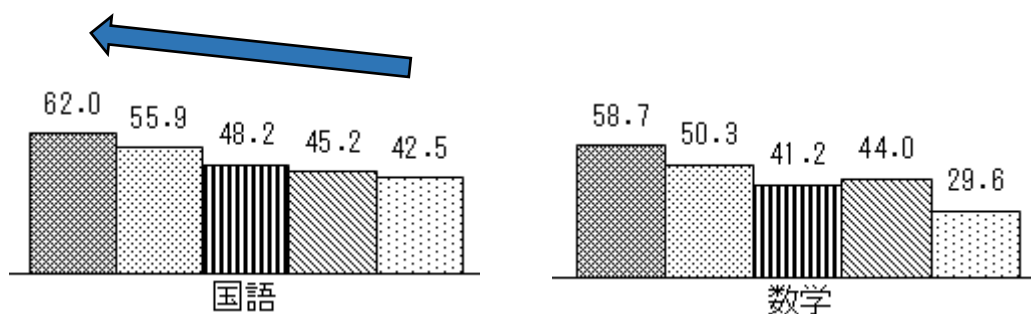
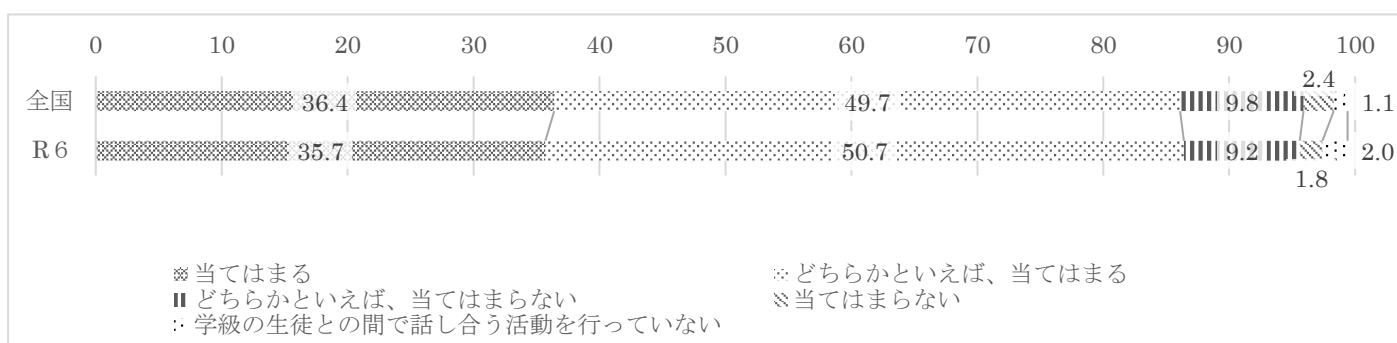
小学生は、肯定的回答割合が 77.2%で R5年度の 70.3%を大きく上回っているが、全国の 79.6%は下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 75.3%と R5年度の 70.2%を大きく上回っているが、全国の 75.4%は下回っている。また、小中学生ともに、肯定的回答割合が R4年度以降において最も高くなっている。小中学生ともに各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(33)】 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

小学生



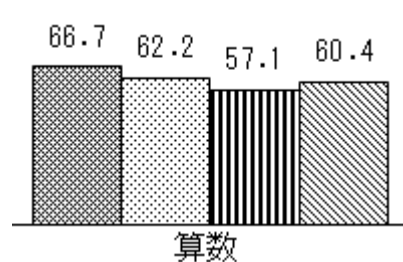
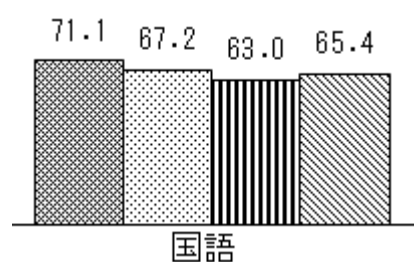
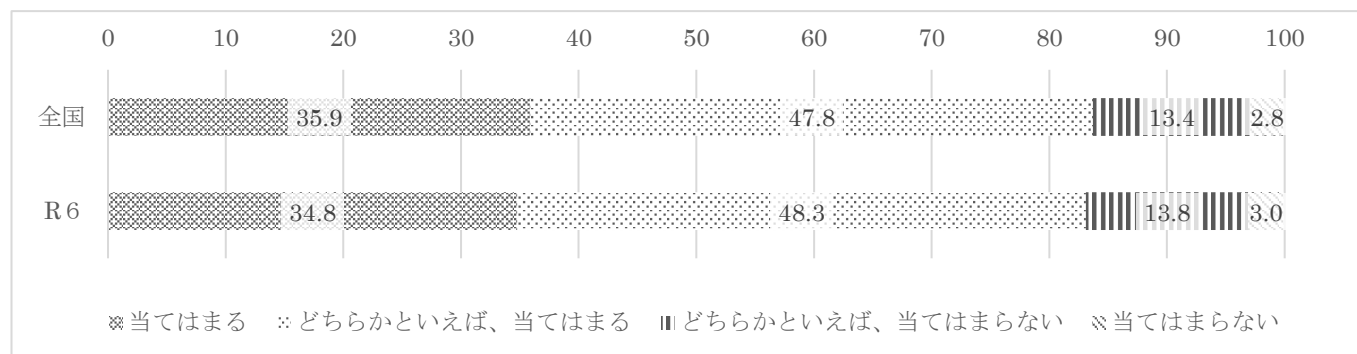
中学生



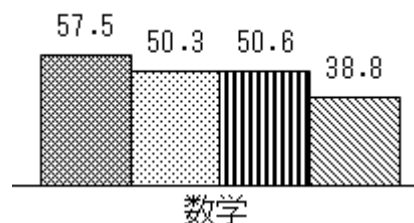
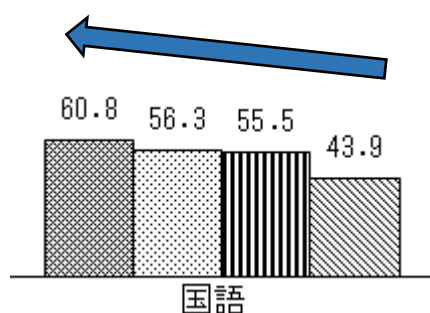
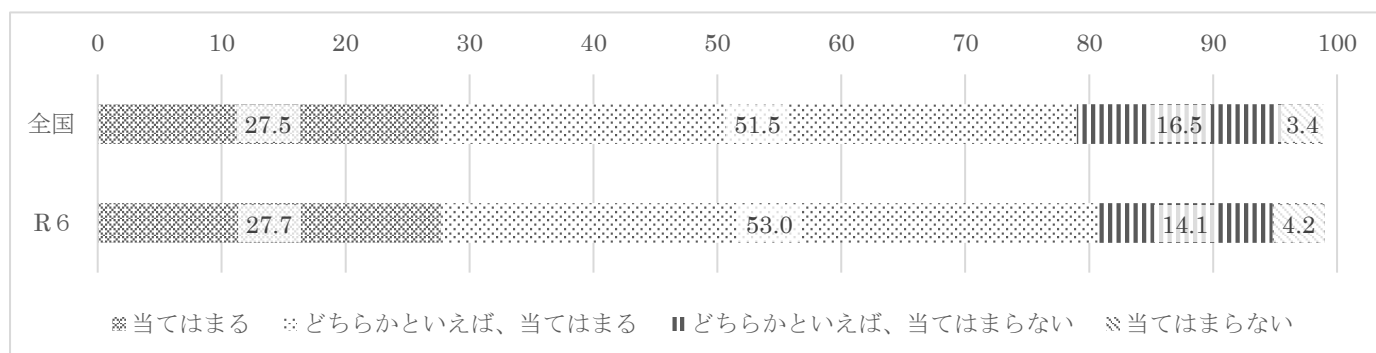
小学生は、肯定的回答割合が 85.1%と、全国の 86.3%より下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 86.4%と、全国の 86.1%を上回っている。中学生は、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(35)】 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

小学生



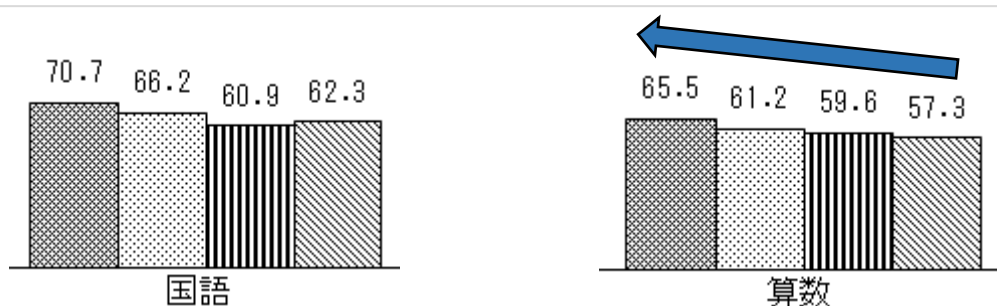
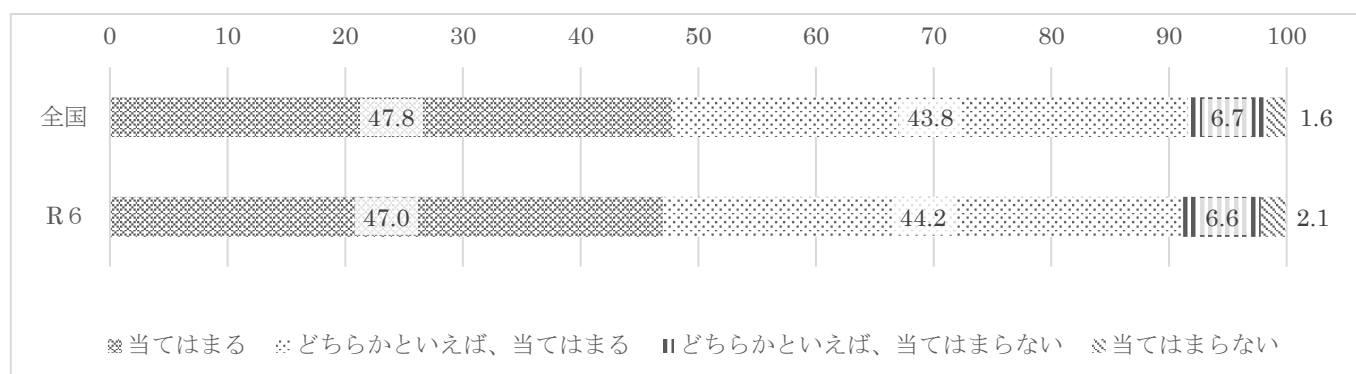
中学生



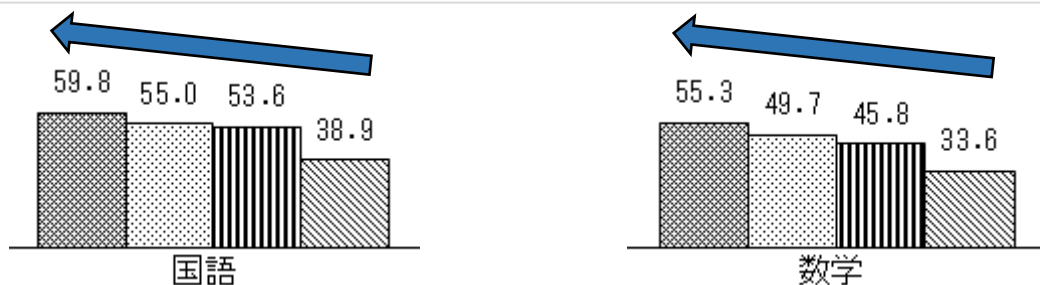
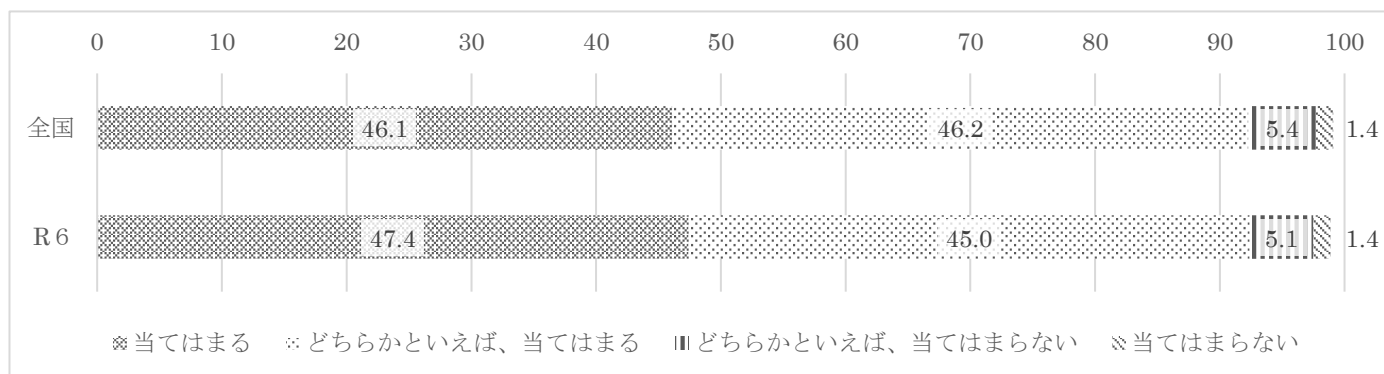
小学生は、肯定的回答割合が 83.1%と、全国の 83.7%より下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 80.7%と、全国の 79.0%を上回っている。中学生は授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる生徒ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(37)】 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

小学生



中学生

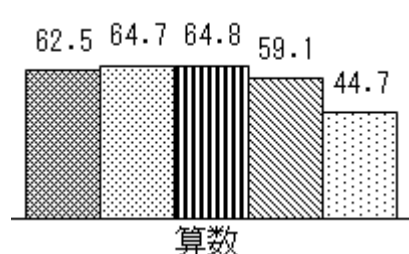
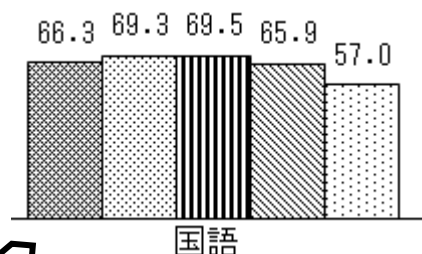
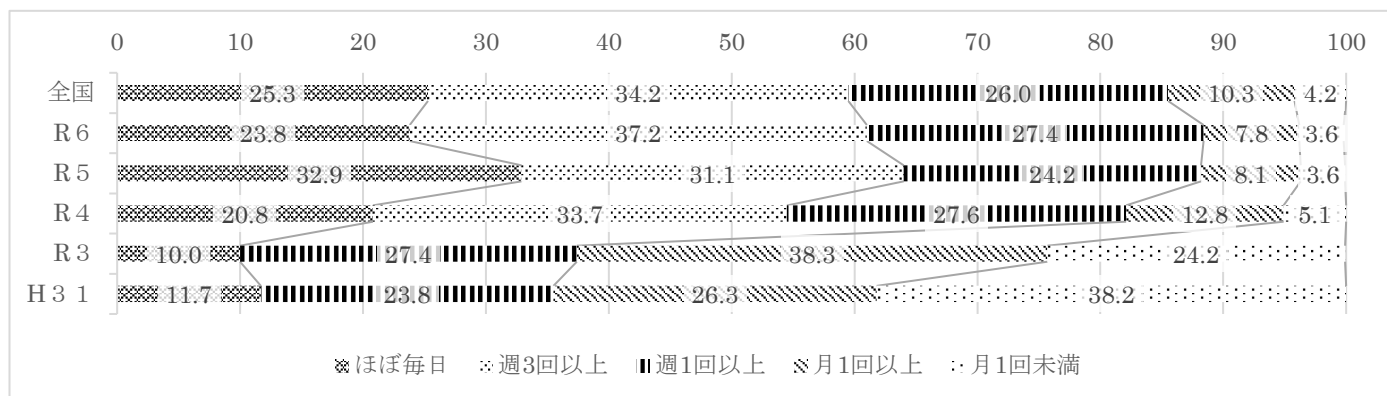


小学生は、肯定的回答割合が91.2%と、全国の91.6%より下回っている。中学生は、肯定的回答割合が92.4%と、全国の92.3%を上回っている。小学生は、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。中学生は、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

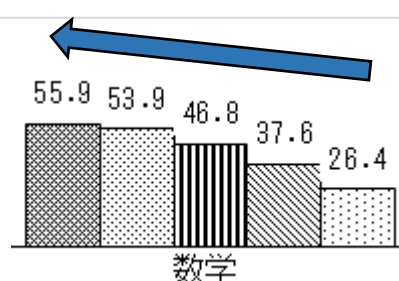
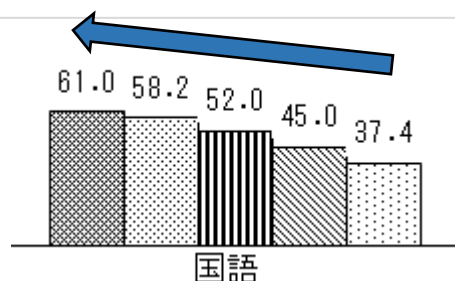
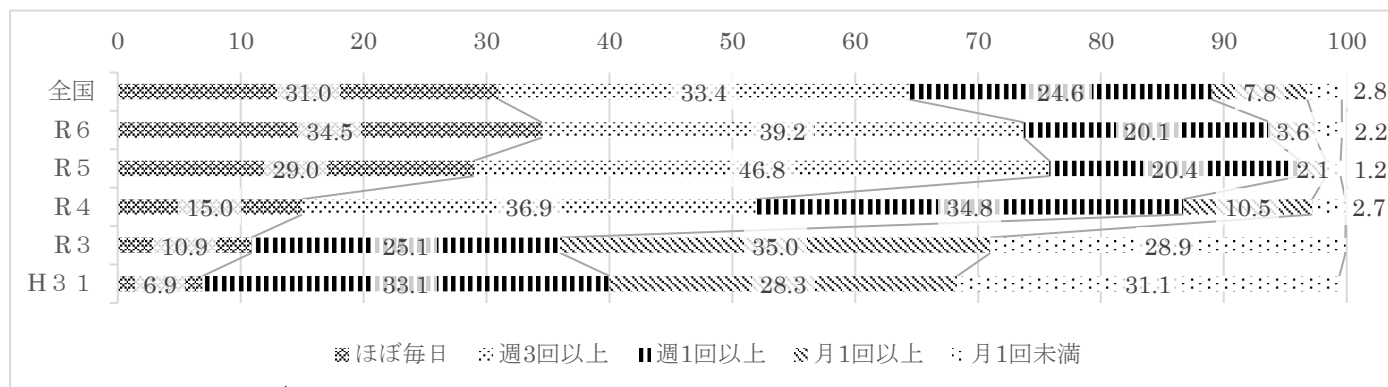
(2)ICT を活用した学習状況

【児童生徒質問紙(27)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学生



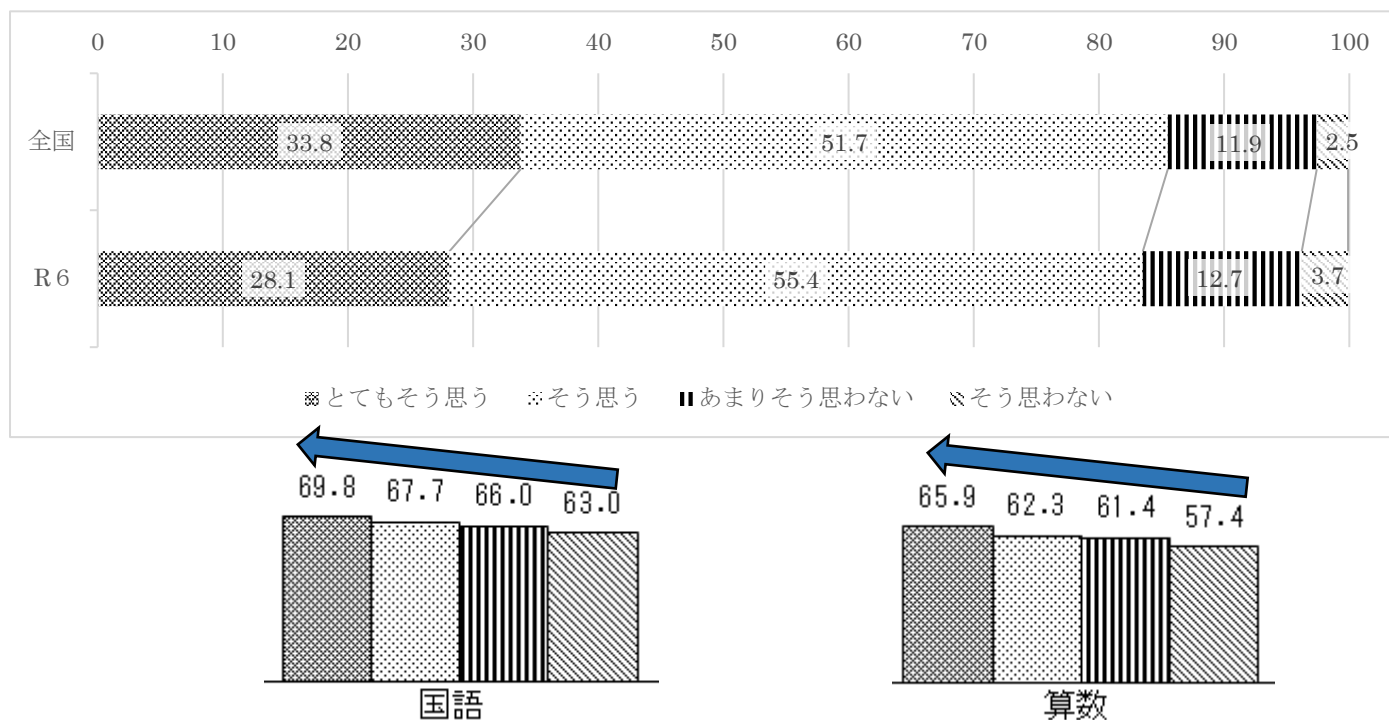
中学生



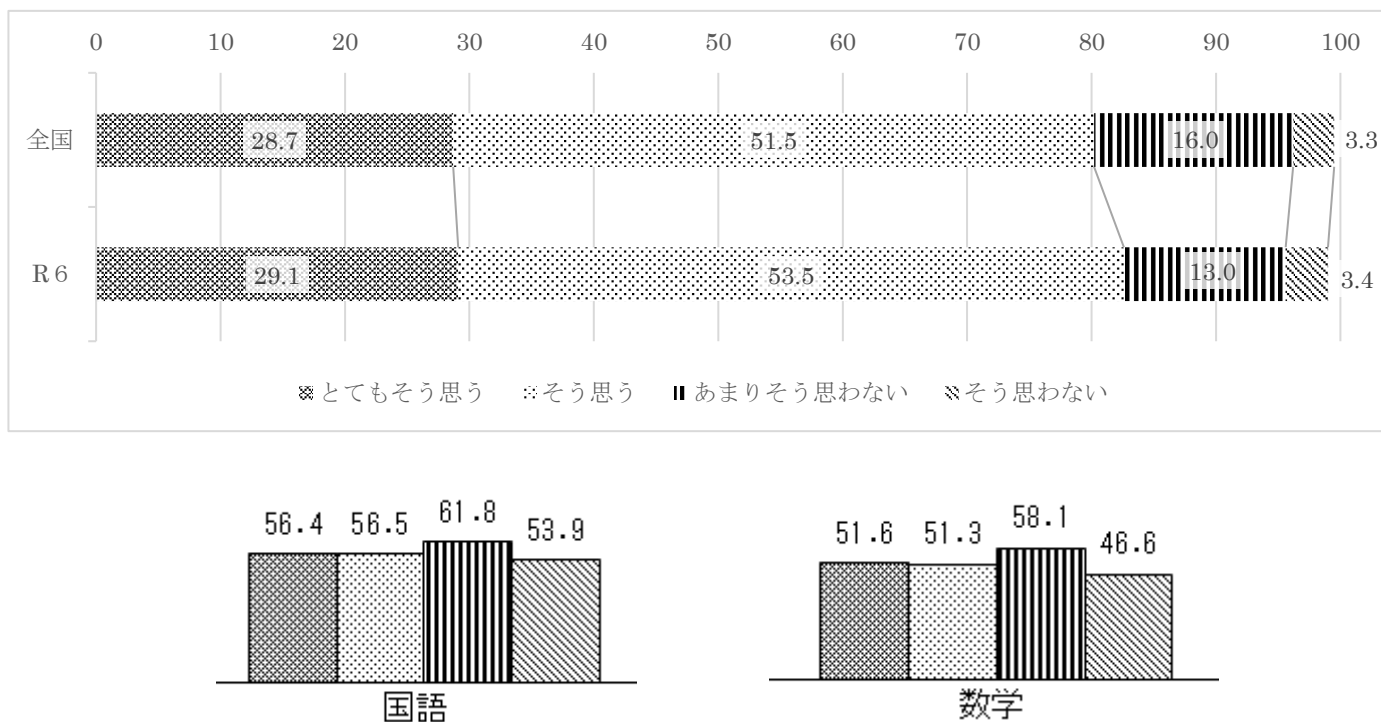
小学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合が61.0%とR5年度の64.0%を下回っているが、全国の59.5%は上回っている。中学生は、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合が73.7%とR5年度の75.8%を下回っているが、全国の64.4%は大きく上回っている。中学生は、授業でのICT機器使用頻度が高い生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(28-1)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか
(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

小学生



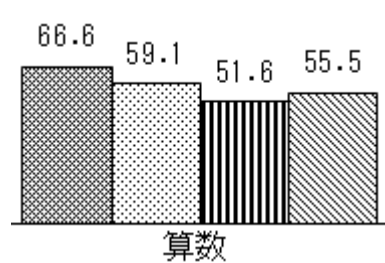
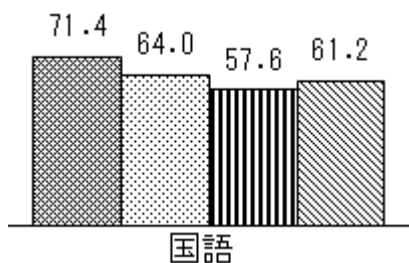
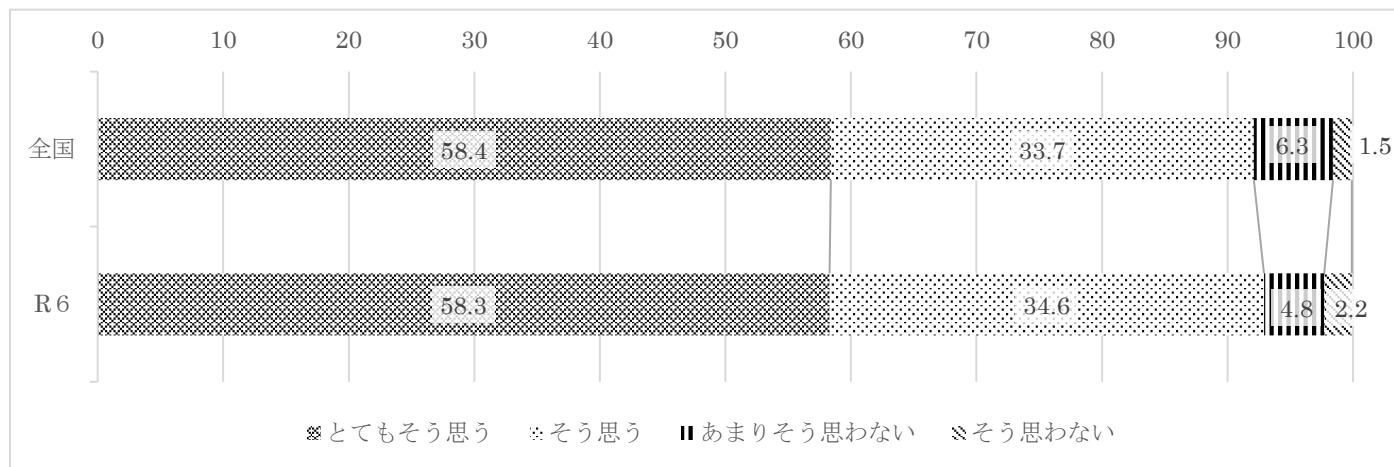
中学生



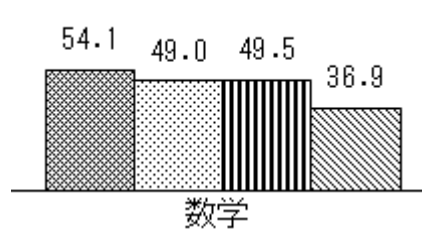
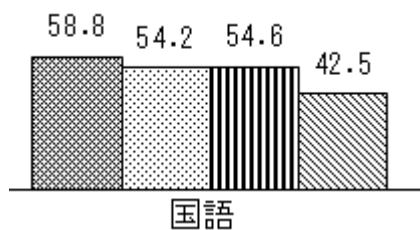
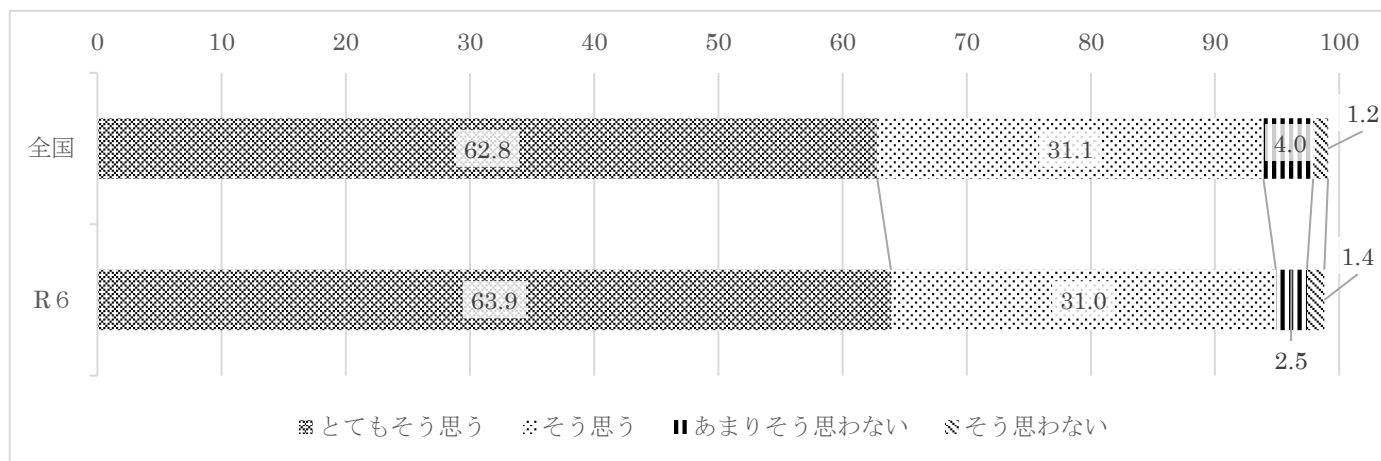
小学生は、肯定的回答割合が83.5%と、全国の85.5%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が82.6%と、全国の80.2%を上回っている。小学生は、学習の中でICT機器を使うと、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思っている児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(28-2)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか
(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

小学生



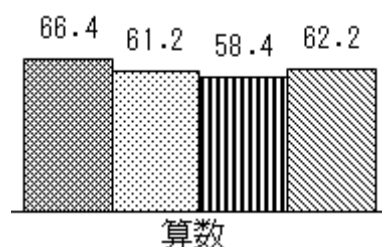
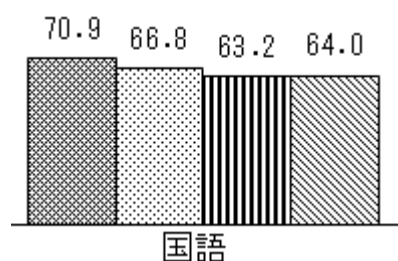
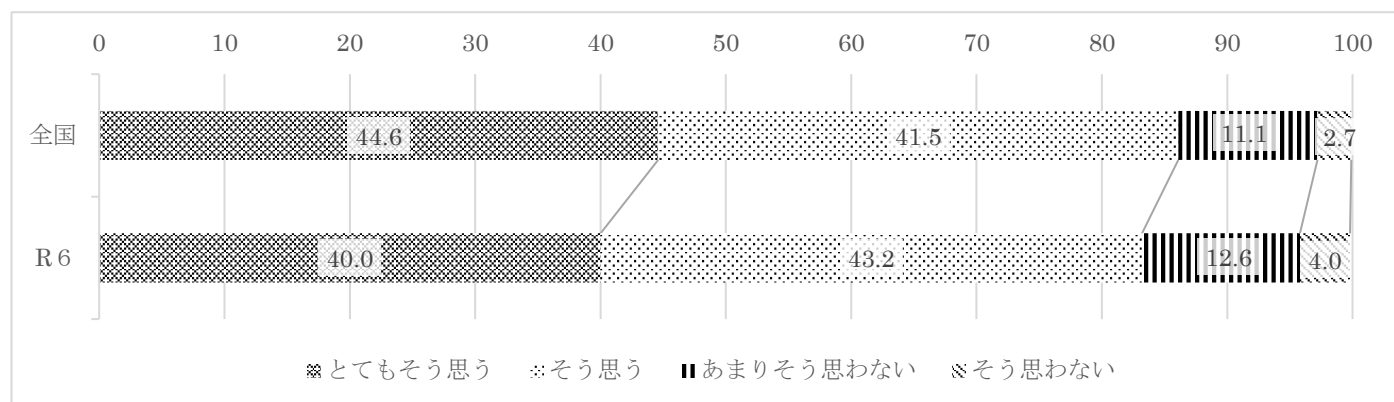
中学生



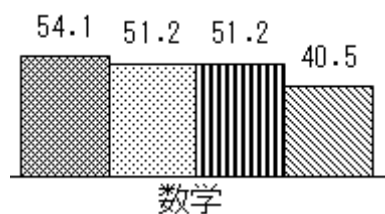
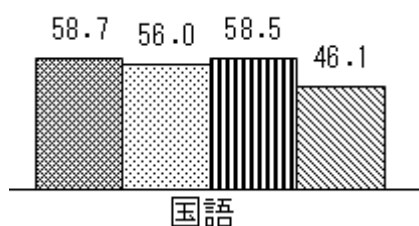
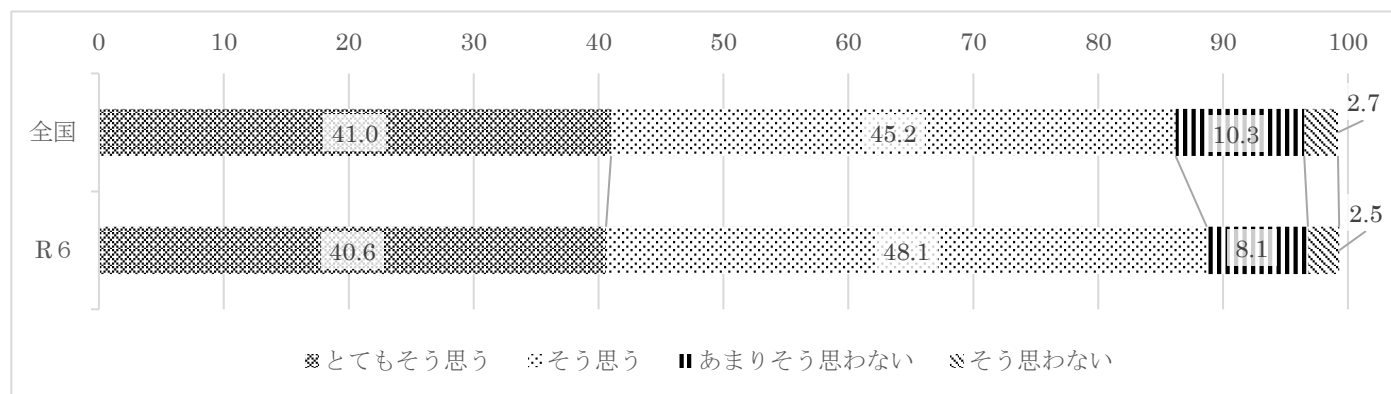
小学生は、肯定的回答割合が92.9%と、全国の92.1%を上回っている。中学生は、肯定的回答割合が94.9%と、全国の93.9%を上回っている。

【児童生徒質問紙(28-6)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか
(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

小学生



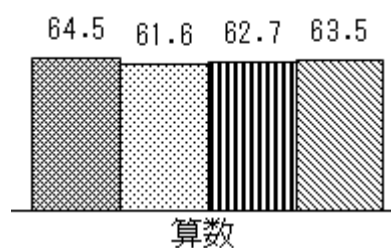
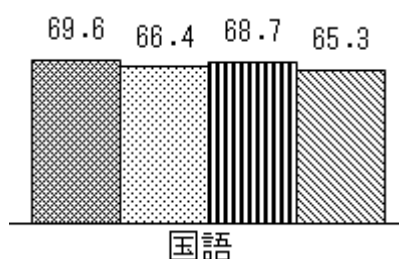
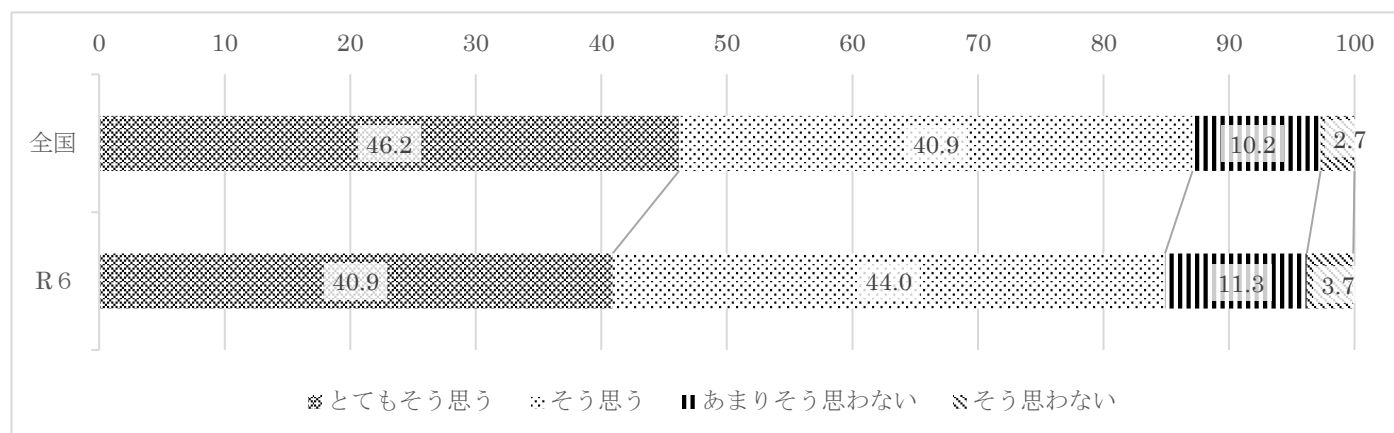
中学生



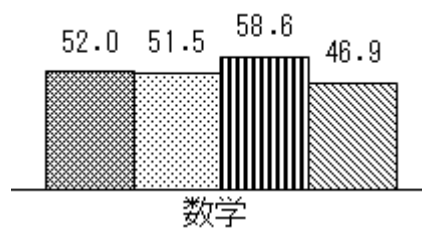
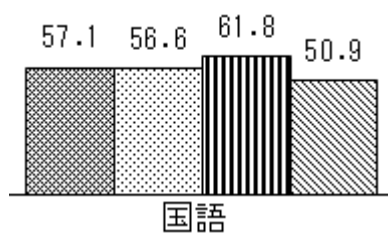
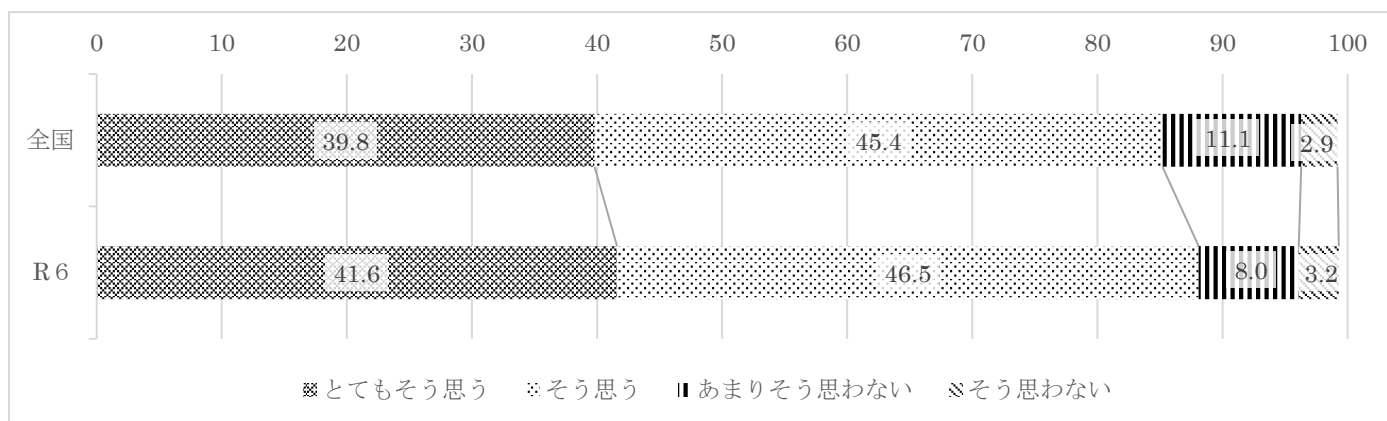
小学生は、肯定的回答割合が83.2%と、全国の86.1%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が88.7%と、全国の86.2%を上回っている。

【児童生徒質問紙(28-7)】 5年生まで(中学生は1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか
(7)友達と協力しながら学習を進めることができる

小学生



中学生

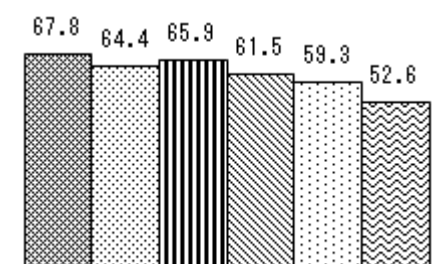
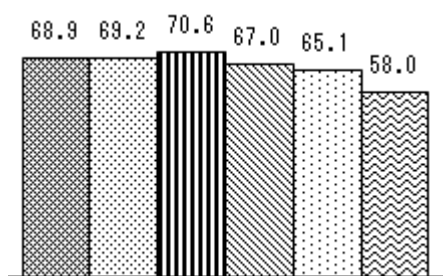
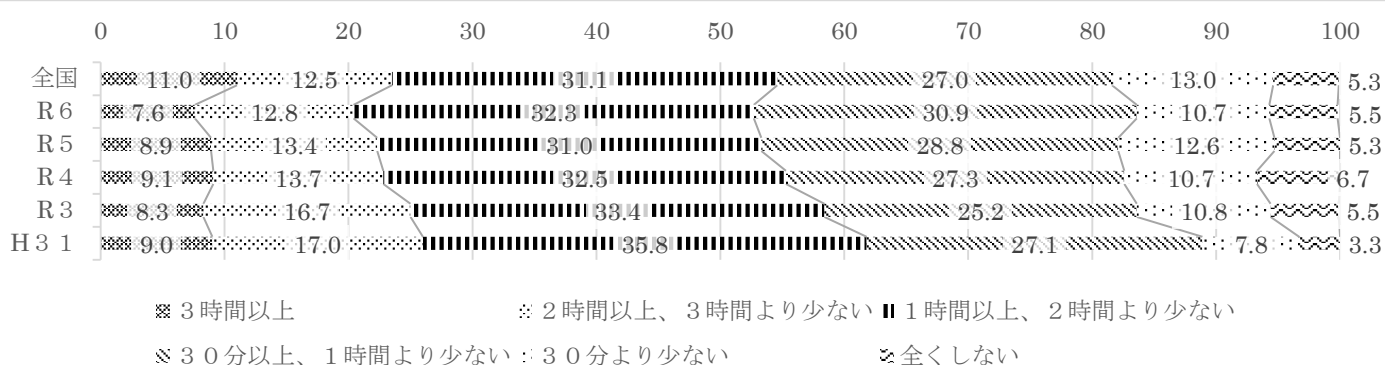


小学生は、肯定的回答割合が84.9%と、全国の87.1%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が88.1%と、全国の85.2%を上回っている。

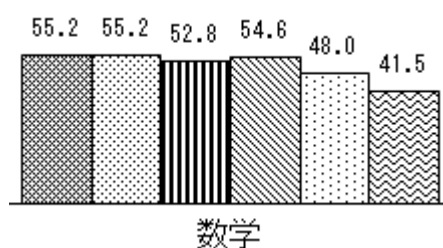
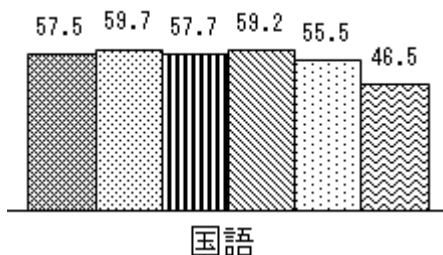
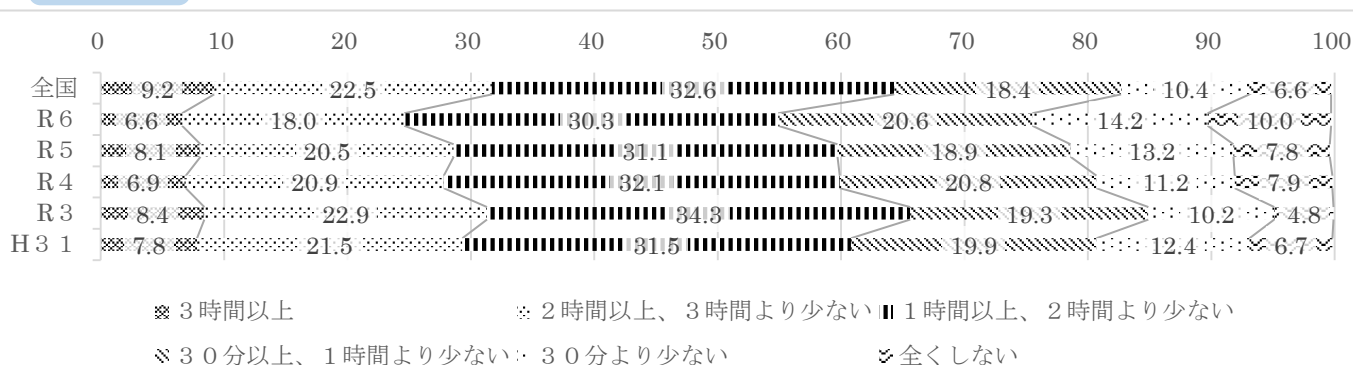
(3)家庭学習に関する取組状況

【児童生徒質問紙(21)】 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生



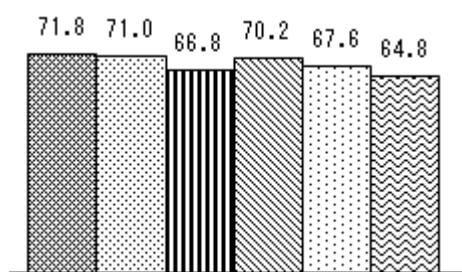
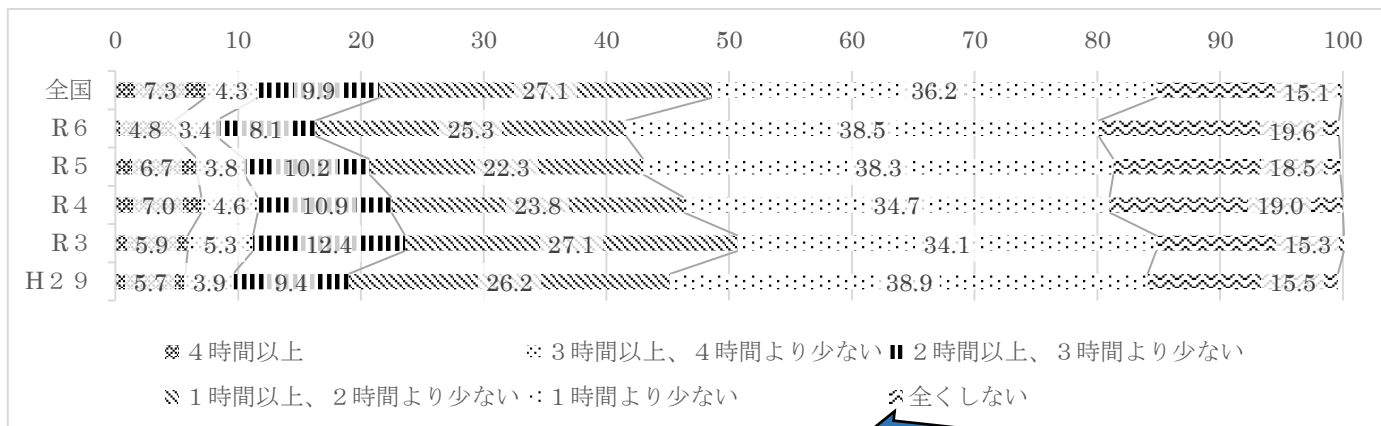
中学生



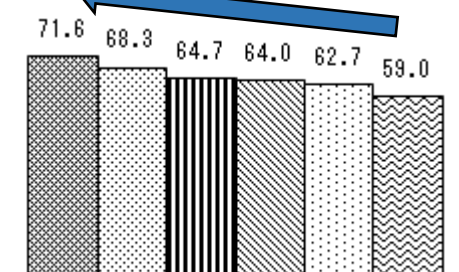
小学生は、「1時間以上」と回答した割合が52.7%とR5年度の53.3%を下回り、全国の54.6%も下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が54.9%とR5年度の59.7%を下回り、全国の64.3%を大きく下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、H31年度以降において最も低くなっている。

【児童生徒質問紙(22)】 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

小学生

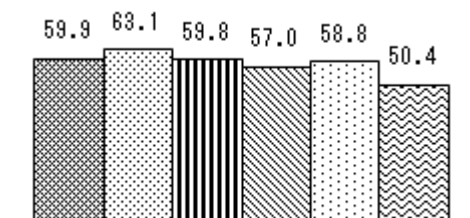
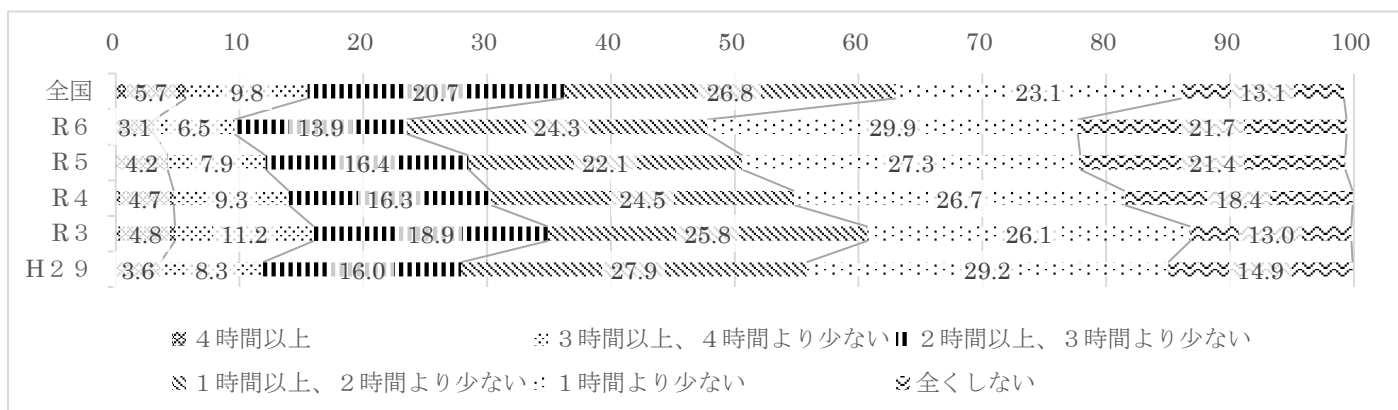


国語

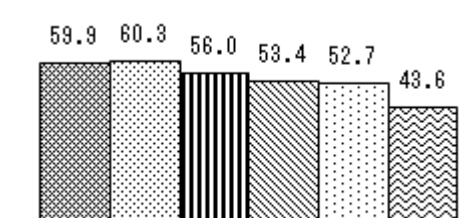


算数

中学生



国語



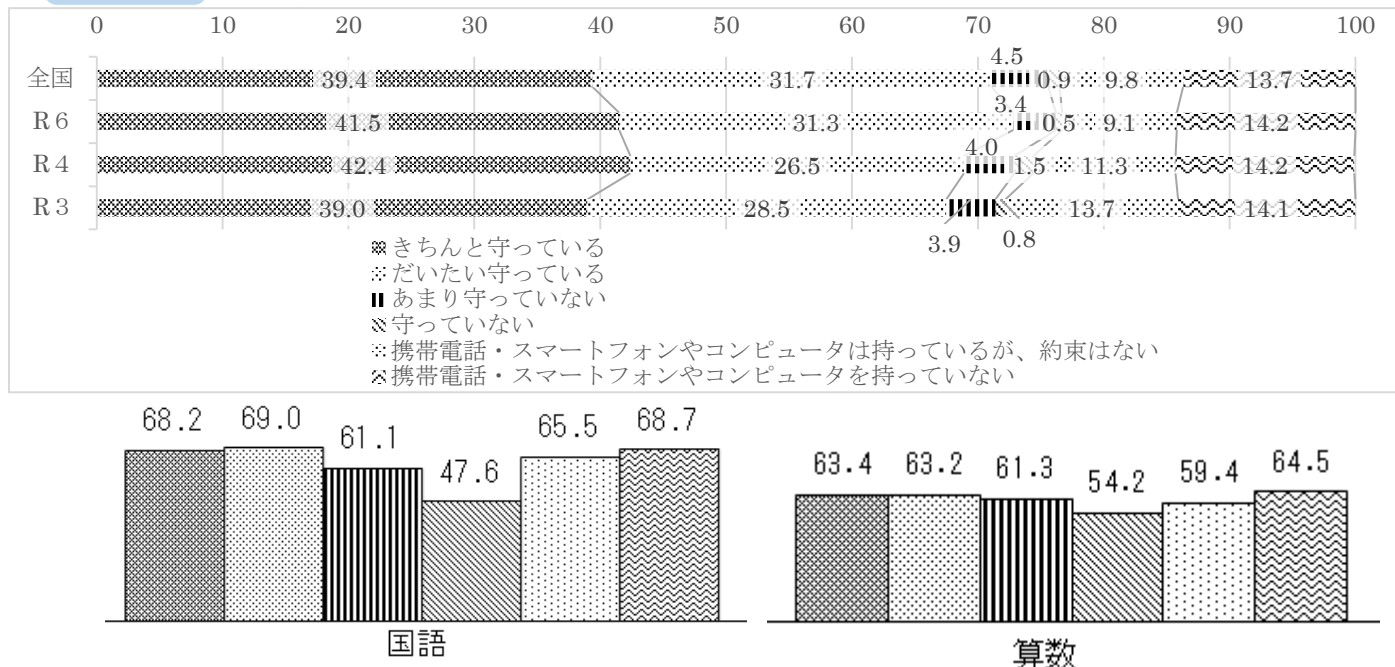
数学

小学生は、「1時間以上」と回答した割合が41.6%とR5年度の43.0%を下回り、全国の48.6%を大きく下回っている。中学生は、「1時間以上」と回答した割合が47.8%とR5年度の50.6%を下回り、全国の63.0%を大きく下回っている。小中学生ともに「1時間以上」と回答した割合が、H29年度以降において最も低くなっている。

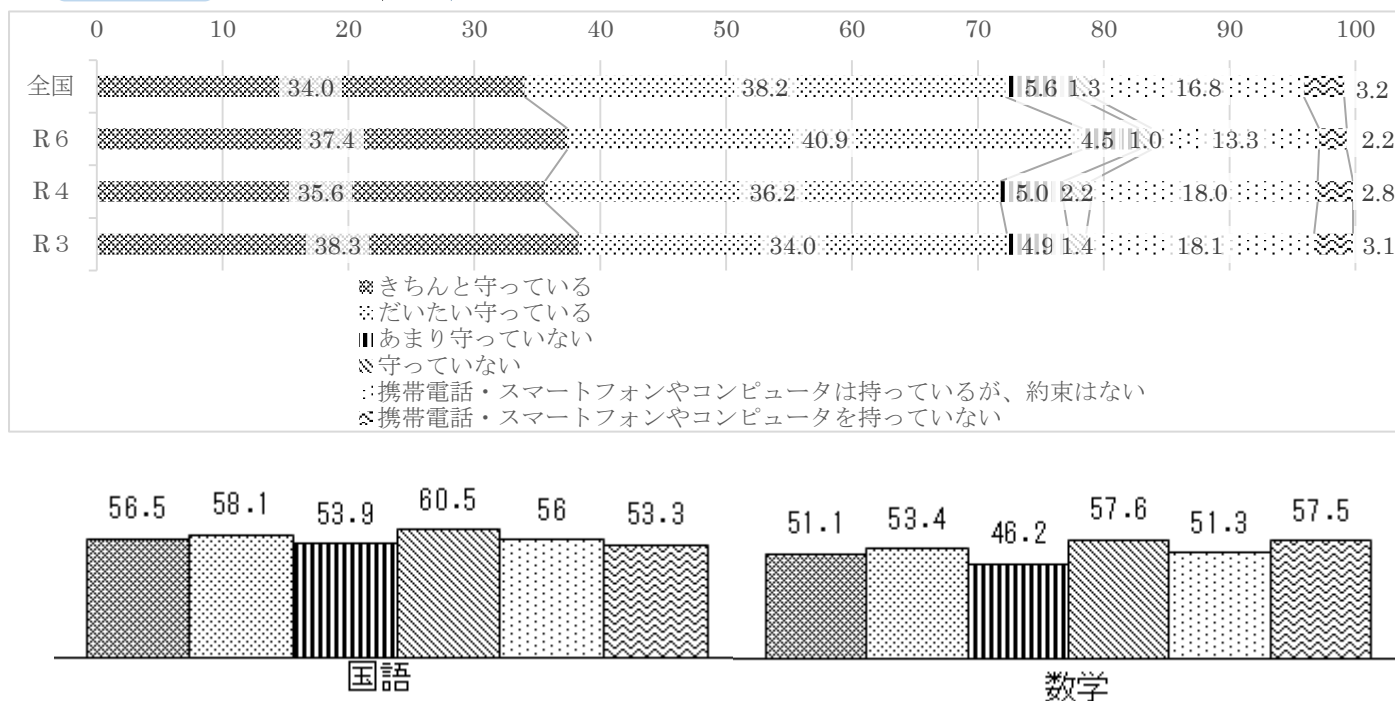
(4)非認知能力等に関する状況

【児童生徒質問紙(7)】 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

小学生



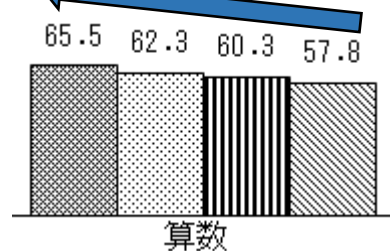
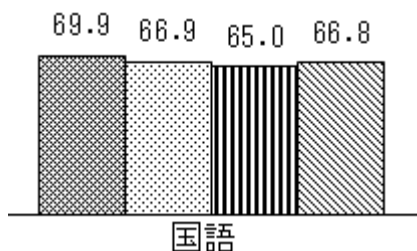
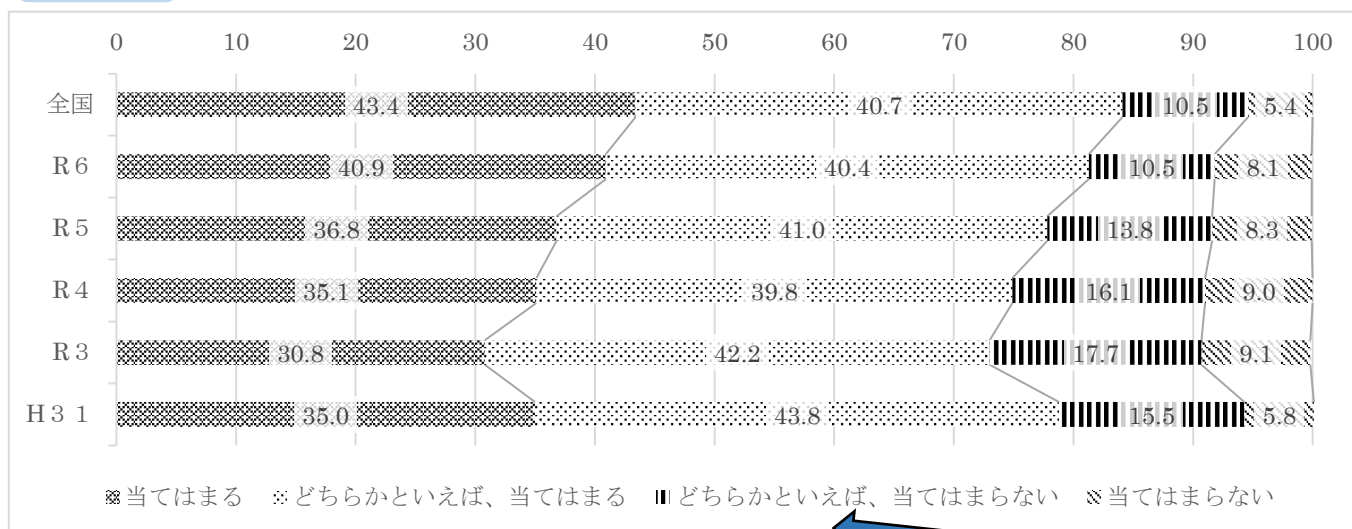
中学生



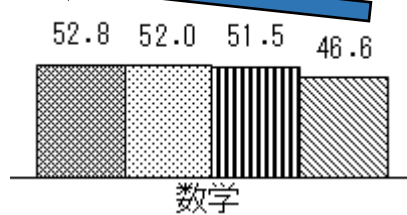
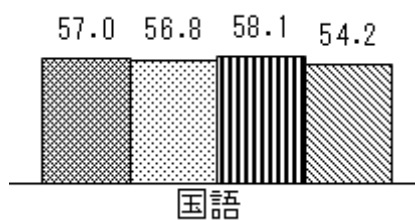
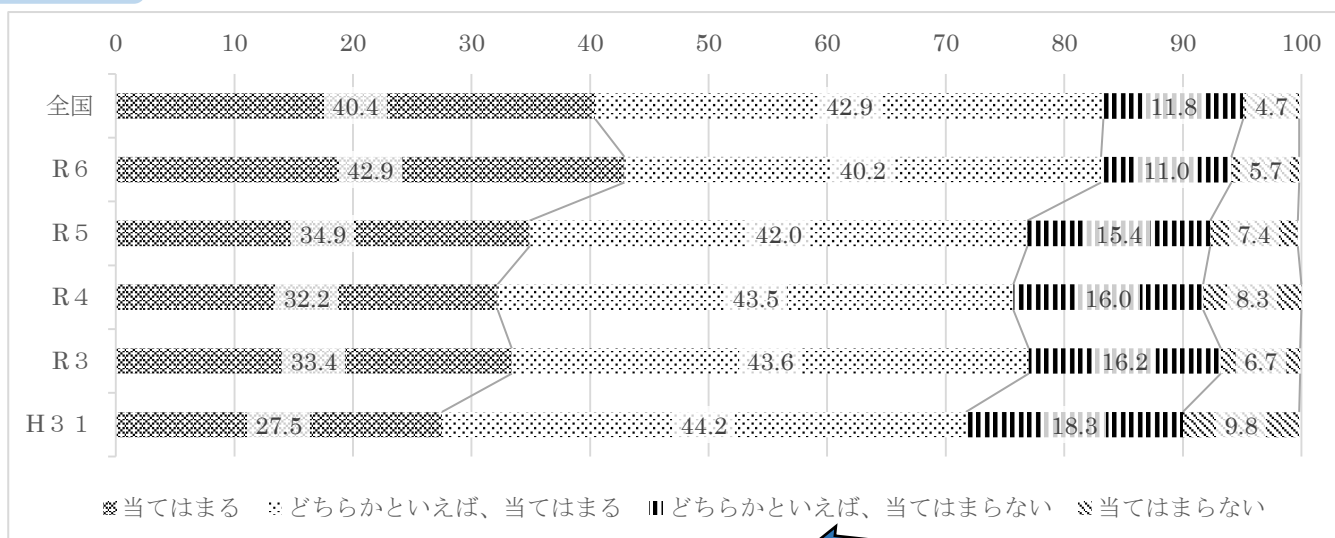
小学生は、肯定的回答割合が72.8%とR4年度の68.9%を上回っており、全国の71.1%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が78.3%とR4年度の71.8%を大きく上回っており、全国の72.2%も大きく上回っている。小中学生ともに、肯定的回答割合がR3年度以降において最も高くなっている。

【児童生徒質問紙(9)】 自分には、よいところがあると思いますか

小学生



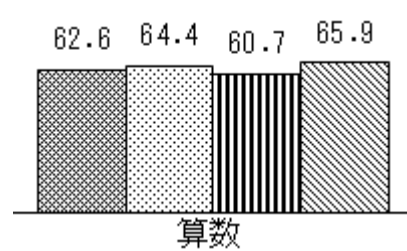
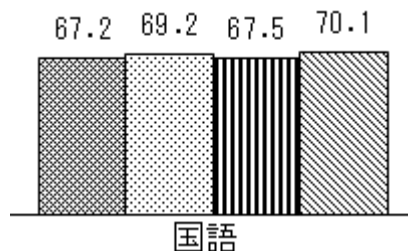
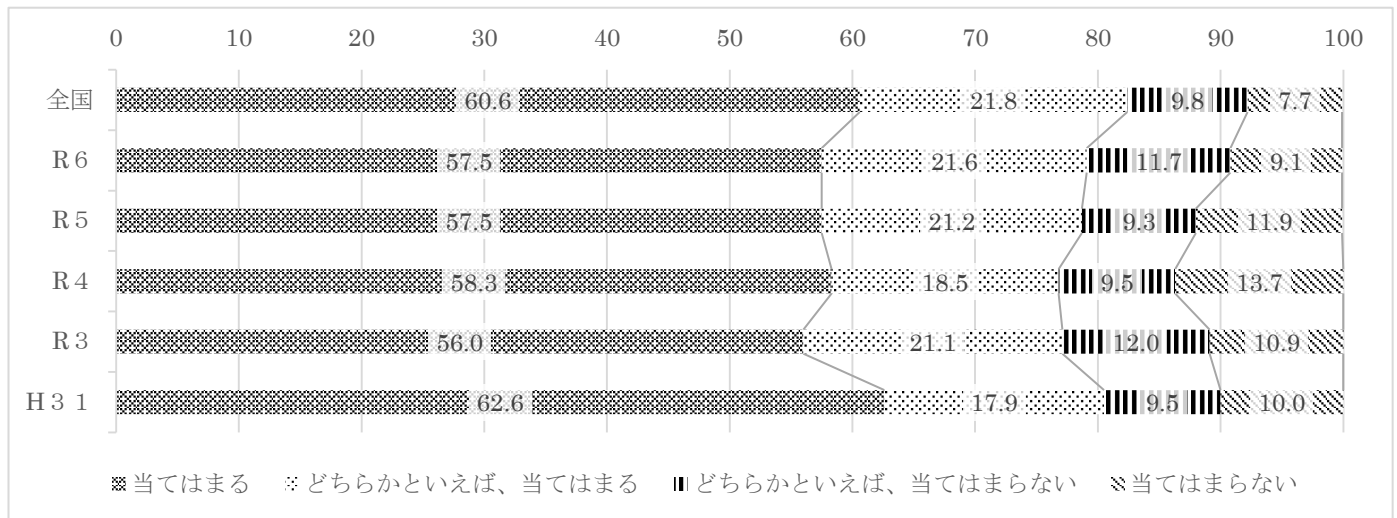
中学生



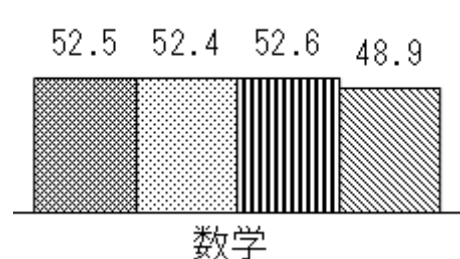
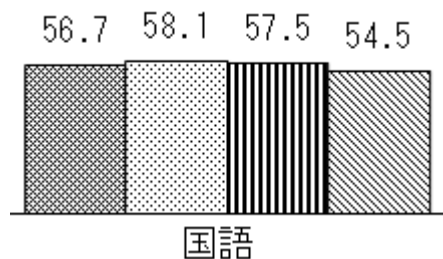
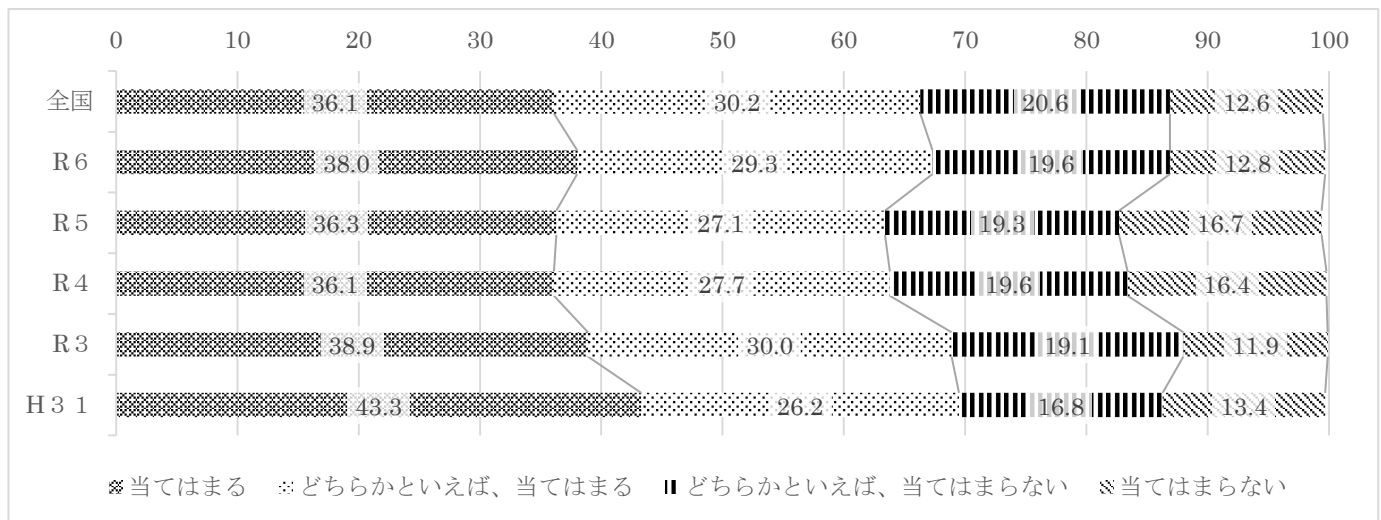
小学生は、肯定的回答割合が81.3%と R5年度の 77.8%を上回っているが、全国の 84.1%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 83.1%と R5年度の 76.9%を大きく上回っているが、全国の83.3%を下回っている。小中学生ともに、肯定的回答割合が H31年度以降において最も高くなっている。小学生は、自分にはよいところがあると思っている児童ほど、概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(11)】 将来の夢や目標を持っていますか

小学生



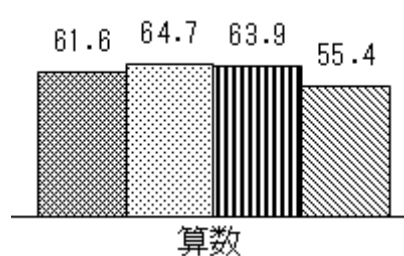
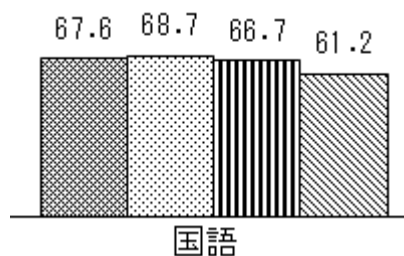
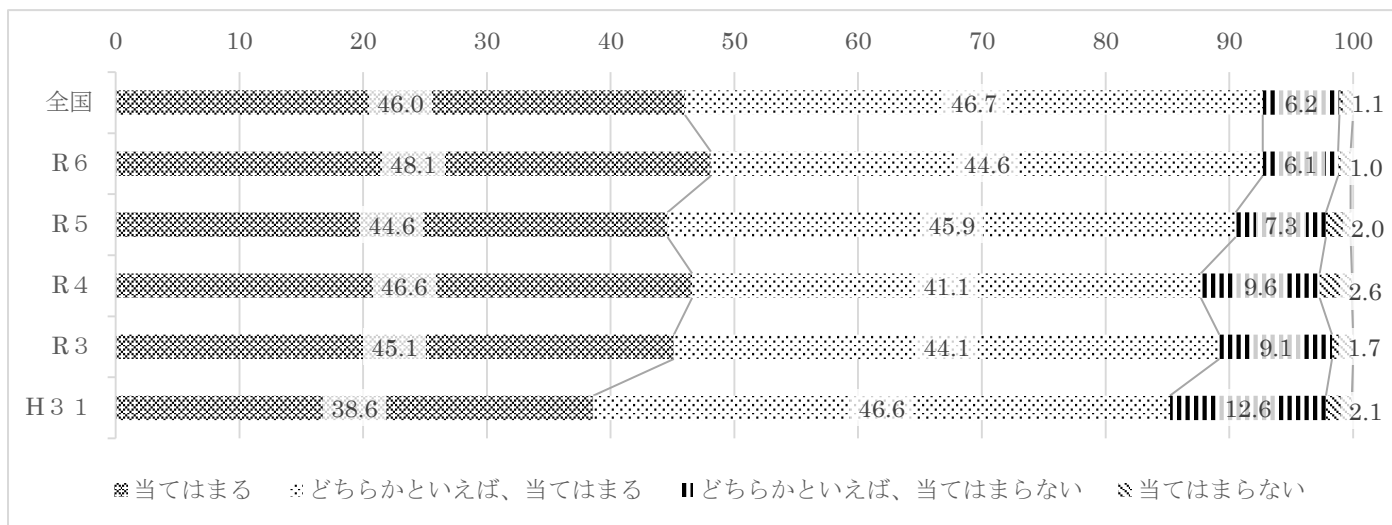
中学生



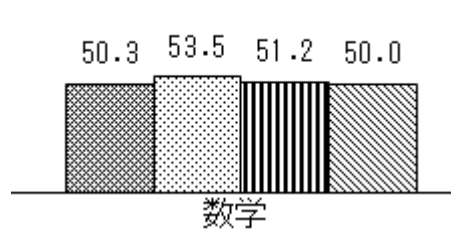
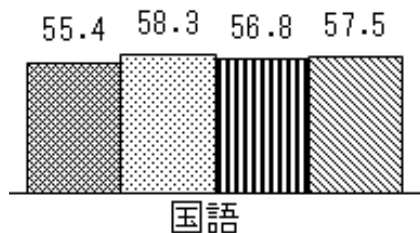
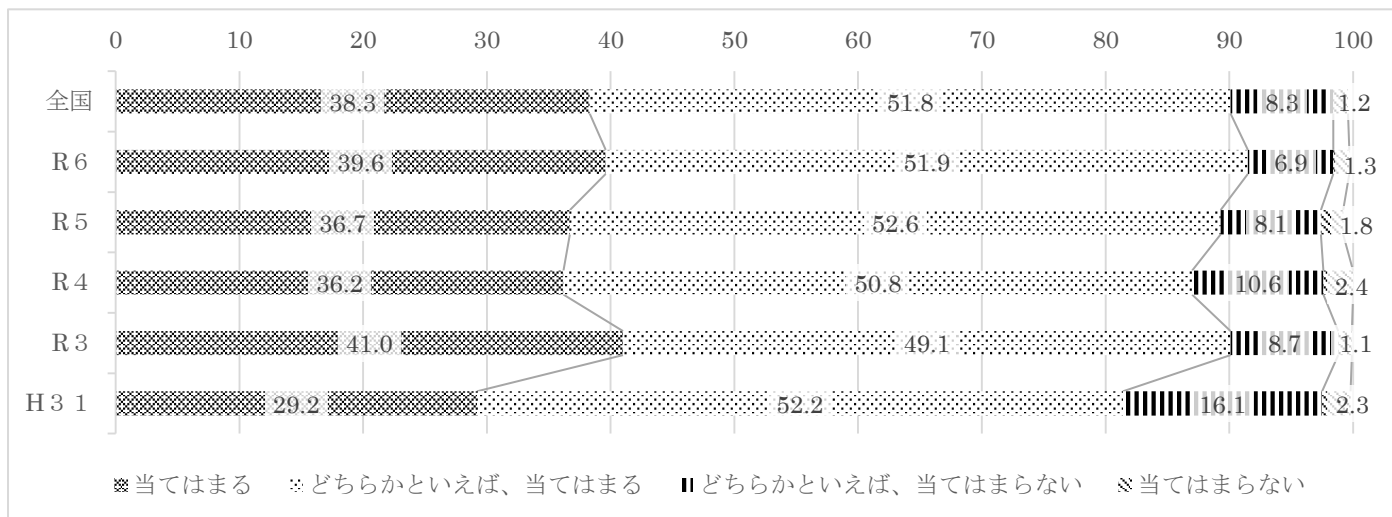
小学生は、肯定的回答割合が79.1%と R5年度の 78.7%を上回っているが、全国の 82.4%を下回っている。
中学生は、肯定的回答割合が 67.3%と R5年度の 63.4%を上回っており、全国の 66.3%も上回っている。

【児童生徒質問紙(12)】 人が困っているときは、進んで助けていますか

小学生



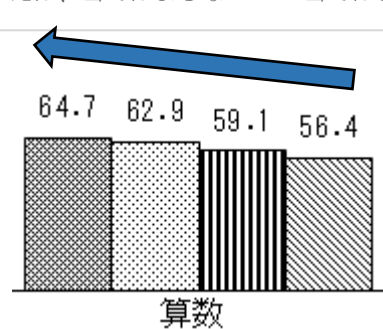
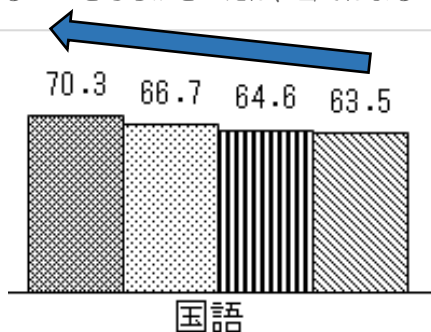
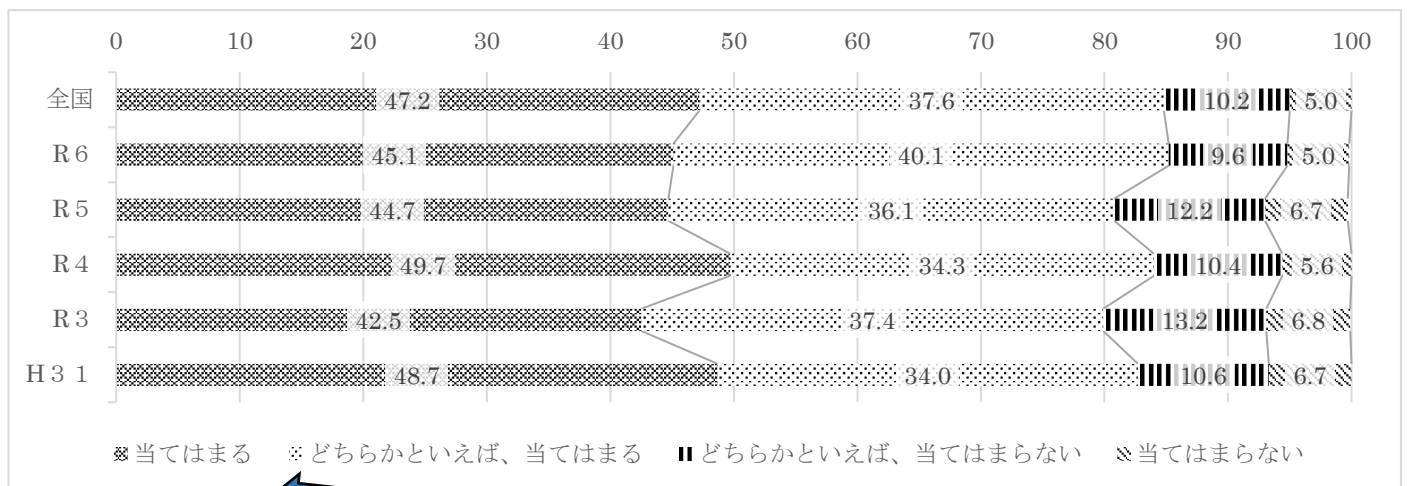
中学生



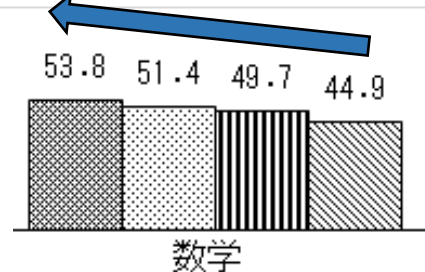
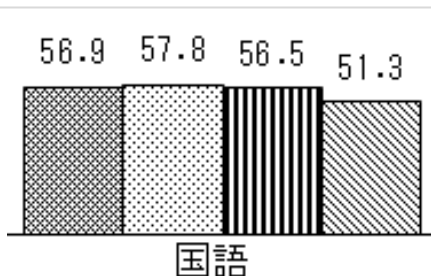
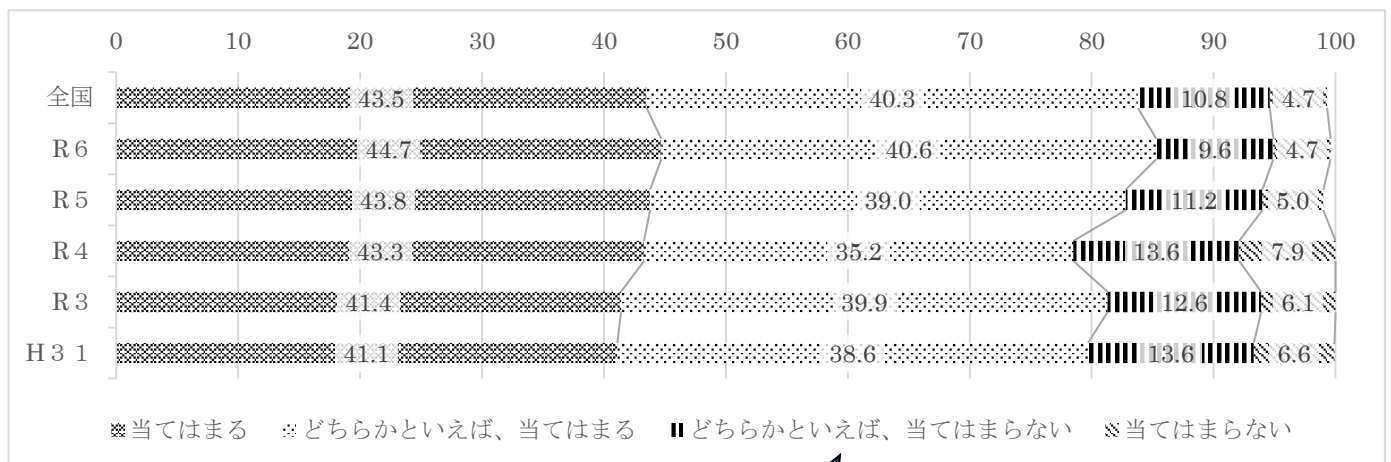
小学生は、肯定的回答割合が92.7%とR5年度の90.5%を上回っており、全国と同率である。中学生は、肯定的回答割合が91.5%とR5年度の89.3%を上回り、全国の90.1%も上回っている。小中学生ともに、肯定的回答割合が、H31年度以降において最も高くなっている。

【児童生徒質問紙(16)】 学校に行くのは楽しいと思いますか

小学生



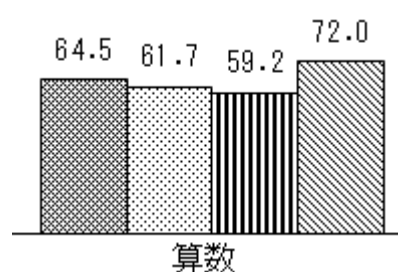
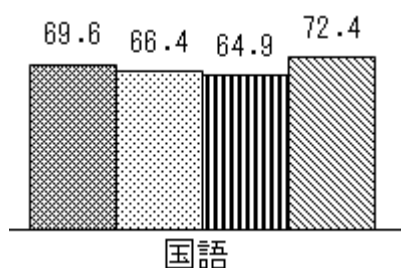
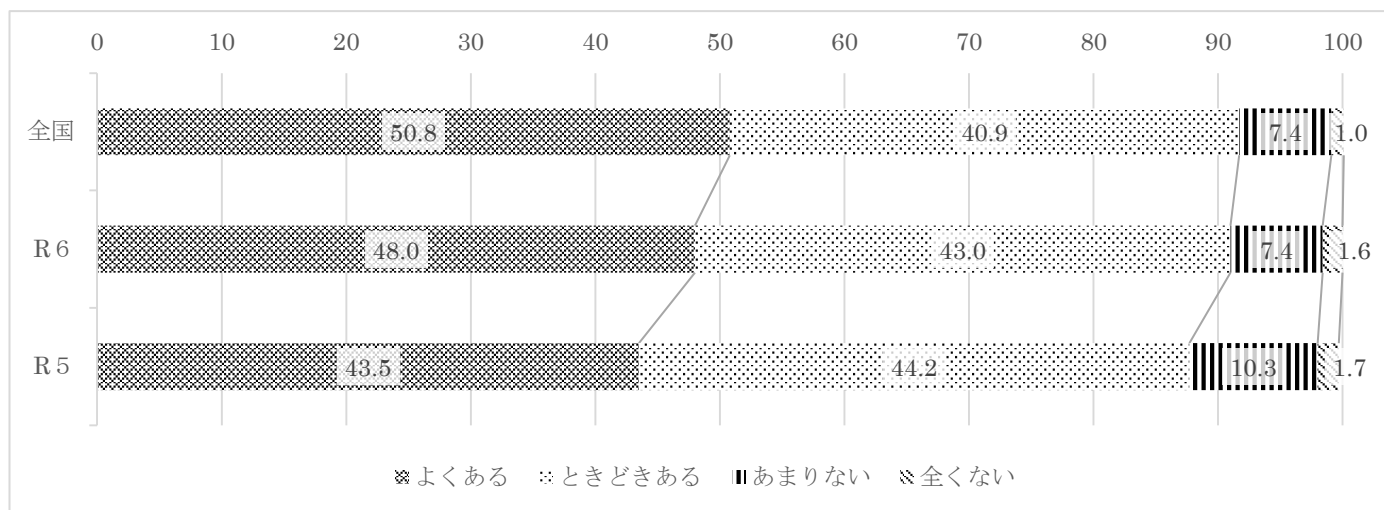
中学生



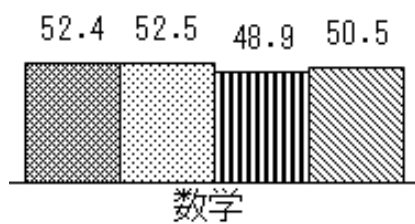
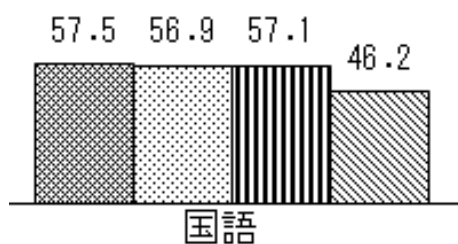
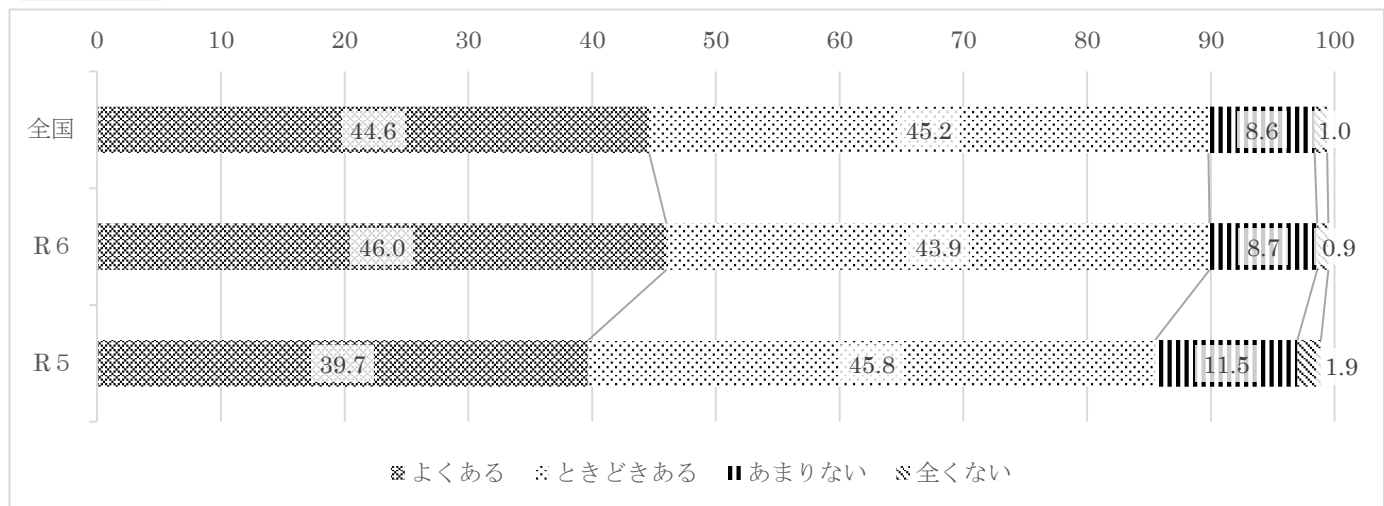
小学生は、肯定的回答割合が85.2%とR5年度の80.8%を上回り、全国の84.8%も上回っている。中学生は、肯定的回答割合が85.3%とR5年度の82.8%を上回り、全国の83.8%も上回っている。小中学生ともに、肯定的回答割合が、H31年度以降において最も高くなっている。小学生は、学校に行くのは楽しいと思っている児童ほど教科の平均正答率が高い傾向にある。中学生は、学校に行くのは楽しいと思っている生徒ほど概ね教科の平均正答率が高い傾向にある。

【児童生徒質問紙(19)】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

小学生



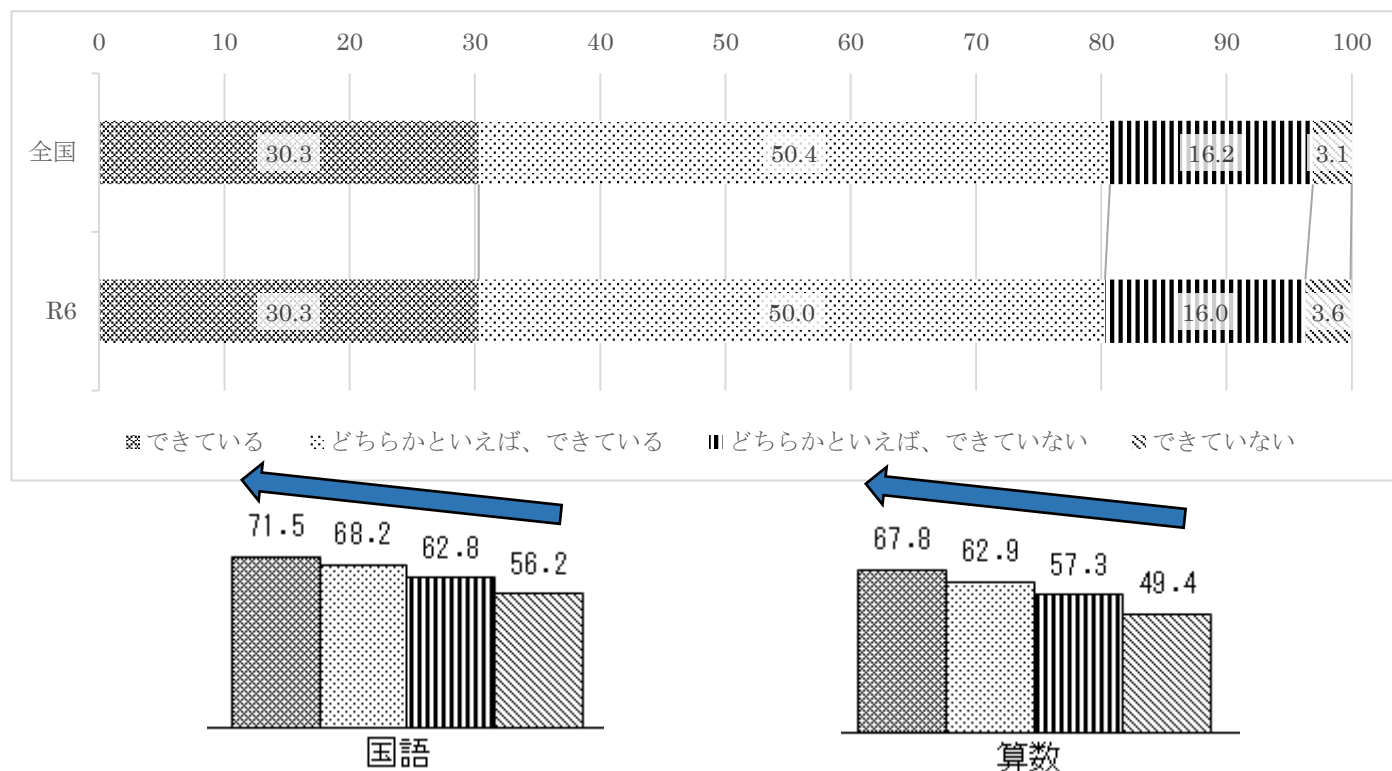
中学生



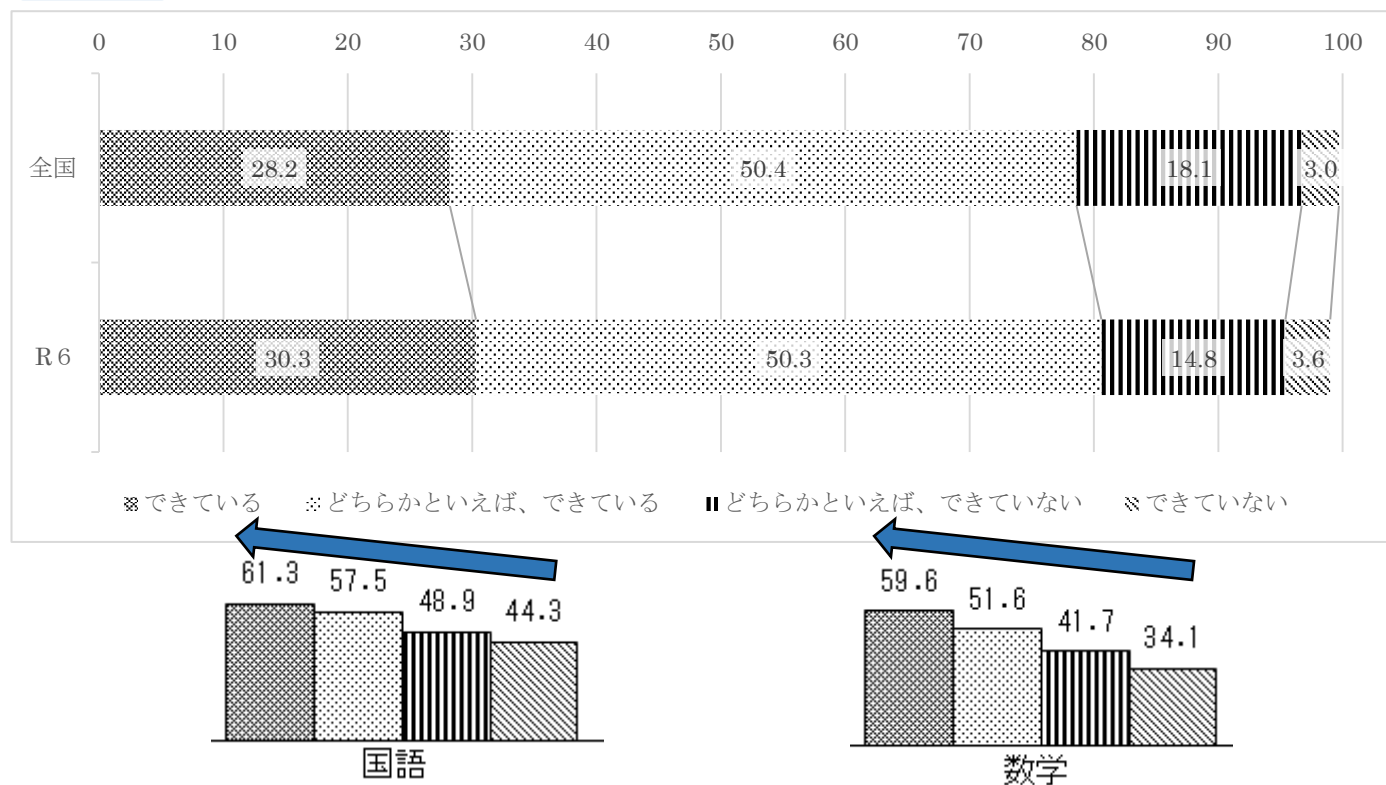
小学生は、「よくある」「ときどきある」と回答した割合が91.0%と R5年度の 87.7%を上回っているが、全国の 91.7%を下回っている。中学生は、「よくある」「ときどきある」と回答した割合が89.9%と R5年度の 85.5%を上回っており、全国の 89.8%も上回っている。

【児童生徒質問紙(20)】 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

小学生



中学生



小学生は、肯定的回答割合が 80.3%と全国の 80.7%を下回っている。中学生は、肯定的回答割合が 80.6%と全国の 78.6%を上回っている。小中学生ともに、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。